

# のんびり

09 non-biri  
2014 Summer



ユタカな国へ  
びあきた  
びじんた  
AKITAVISION  
TAKE FREE





花のプロフィール(1990)

いろいろ、良かった～(良かった～)。  
また来てくれな～。な～!

4月29日～5月6日、にかほ市象潟公会堂にて開催された、木版画家、池田修三の作品展「いろいろ」。本誌3号の取材をきっかけに、昨年引き続き開催されたこの展覧会に、今年は全国各地から4127人の方がご来場くださいました!

今号の表紙は、その展覧会と一緒につくり上げた地元のボランティアのみなさんと撮影です。モチーフは、「いろいろ」のメインビジュアルとなった『花のプロフィール』という作品。頭を花で彩られた少女の横顔を、大規模なセットで再現します。

4・5メートルもある巨大な横顔と花の飾りは、秋田公立美術大学の学生さんによるもの。いろいろどりの花を傘に貼り付け、ボランティアのみなさんに掲げてもらいます。それを、写真家の浅田政志がクレーンに乗って上から撮影します。

この日の撮影場所「潮風公園」(にかほ市平沢)は、晴天ながらもすごい強風!傘が激しく煽られるなか、みなさん必死で踏ん張ります。しかし、1週間ともにボランティアを務めたみなさんのチームワークはお見事!失敗しても笑いながら、展覧会の締めくくりにふさわしい、最高の一枚を撮ることができました!

その撮影の様子は「のんびり公式ウェブサイト」にて公開中。そしてさらに、今号では「AR」という技術を使った新企画にチャレンジ!スマートフォンをお持ちの方は、専用のアプリをダウンロードの上、この写真を見てください。なんと……詳しくは下記をご覧ください。

「動画の再生方法」

- ①専用の「ビューアアプリ」をダウンロード。
- ②「ビューアアプリ」を起動して設定画面に「ATFM-2509-0561」のチャンネルコードを入力。
- ③スマートフォンを上記の写真にかざすと、画面上で動画と音声自動再生!



専用の「ビューアアプリ」のダウンロードは右のQRコード、または「うごくプリント」で検索してください。  
※専用の「ビューアアプリ」はiOS6.0以降、Android OS Ver4.1以降 対応



「のんびり」表紙写真ができるまで。写真家浅田政志と奮闘したその過程を公開中! <http://non-biri.net>



のんびりしたいは  
みんなのきもち  
のんびりできるは  
ゆたかなあかし  
のんびりまっすぐ  
秋田のくらし

秋田にはうまい飯とうまい酒があります。  
その豊かさが秋田の実直なものづくりを支えてきました。  
そして同時に、秋田の人々のなかには  
大らかで力強い「のんびり」精神が育まれました。  
そんなのんびり秋田は  
右肩上がりの経済成長という  
ゴールなきゴールに向かい  
懸命に走ってきたニッポンにとって  
まるでピリを走るランナーのように  
映っていたかもしれません。  
けれど世の中は変わりました。  
順位など気にせずのんびり歩いてきたことが  
まさに「のんびり」となる時代がやってきました。  
日本人の多くは今、  
うまい飯が食べられてうまい酒が飲めるという  
当たり前の豊かさについて考え直しています。  
しかし秋田では昔も今も、ずっと  
それが人々の暮らしの真ん中にありました。  
ビリだ二番だ。上だ下だ。と  
相対的な価値にまどわされることなく  
自分のまちを誇りに思い、他所のまちも認め合う。  
そんなニッポンのあたらしい「ふつう」を  
秋田から提案してみようと思います。





Contents

- 1 のんびりまっすぐ秋田のくらし
- 4 **秋田弁でしか伝えられないもの**
- 6 第1章 標準語の村?
- 14 第2章 Welcome! 村
- 22 ほかにもあります 秋田弁 スペシャルその①
- 24 第3章 なんも先生
- 34 ほかにもあります 秋田弁 スペシャルその②
- 36 第4章 なんもなんも村
- 44 詩修 詩人が描く池田修三の言葉⑤  
倉本美津留 / C 幼笛
- 45 写真家 浅田政志の 撮らずにはいられない!!  
第9回 / pramo
- 50 **のんびりまっすぐ秋田のうどん**
- 57 下戸式秋たんぼう 福田利之  
第9回 / 象潟よいとこ一度はおいで
- 62 non-biri akita access map



**のんびり 編集チーム**

秋田メンバー

  
渡谷和之

  
今井春佳

  
船橋陽馬

  
田宮慎

  
矢吹史子

県外メンバー

  
服部和恵

  
山口はるか

  
鍵岡龍門

  
浅田政志

  
藤本智士

  
 『標準語の村』著者  
北条常久さん

  
 秋田弁の先生?!  
加藤はなえさん

  
 西成瀬地域センター長  
季子和春さん

今号の「あきたびじんぶつ」  
 関連図

秋田で暮らす  
 美しき人々  
 =  
 あきたびじん





# 秋田弁 でしか 伝えられない もの

取材文 藤本智士

Text Seisho Fujimoto

写真 浅田政志 / 鍵岡龍門 / 船橋陽馬

Photo Masashi Asada / Ryumon Kagioke / Yoma Furubashi

本誌の取材をとおして何度も訪れるようになった秋田の町。特に秋田市内で仕事をしていると、もはやここが秋田なのかとこのなかのわからないようになることがあります。その理由の一つはチェーン店の存在。全国どこにいても同じ味、同じサービスを提供してくれるチェーン店は、安心感という意味ではとても素晴らしいことなかもしれませんが、その結果、駅前や国道沿いの景色が画一化され、その土地にもともとあったはずの個性や文化が次々と消えてしまっています。その裏側には、それを喜ぶ土地の人たちの暮らしがあるだけに、やみくもに否定する気はありませんが、旅人という立場でこの町にやってくる身として、なんだかつまらないなあ、と思うこともしばしば。そしてそれと同じくあるのが、僕は言葉だと感じています。

ここで突然なんですけど、本誌表紙の『のんびり』という文字を描いてくれたイラストレーターのスタダカミツくんブログ記事を一部引用させてもらいたいと思います。町内会

班長となったスタダくんが回覧板をまわすためにご近所さんを訪れたときの話です。とにかくちょっと読んでみてください。

奥から「今、ガス止めるからちよつとまって〜」と聞こえてきました。私は「ままざめしてるところ、すいません」と言うと、おばあちゃんは嬉しそうに「あなたどこの出身？本荘だが？」と言いながら、台所から歩いてきました。「ままざめ」という言葉は秋田弁で「夕飯の支度」のことをいいます。おばあちゃんは本荘の出身で、言葉の響きから昔を思い出したようでした。その後、おばあちゃんは自分の若い頃の話や、自分の父親の話などもしてくれました。確か、おばあちゃん、ままざめ途中だったけどいいのかな？ と気になりながらも、優しい笑顔に引き込まれ、ついつい話に聞き入ってしまいました。

このように、郷土の言葉はまるで魔法の言葉です。たった一つの方言が、世代の違う二人の距離を一気に

近づけてくれる。ふだん関西に住む僕は、スタダくんのこの文章を読んで、その土地の言葉というのは「ほんまにええもんやなあ」と、強く思いました。しかしその思いに反して、郷土の言葉はいま確実に消えつつあるように思います。どこに行っても同じ服が買えて、どこに行っても同じ味のハンバーガーが食べられるように、どこに行っても標準語でコミュニケーションがとれる世の中はとも便利で、明らかに僕たちはその恩恵を受けながら暮らしています。しかし、便利という名の正義を旗印にひたすら突き進んできた日本人が、いよいよその先の未来に限界を見はじめたいま、僕は標準語と方言とのあたらしい共存についても考えてみたいと思います。そしてそれを考えるために最も適した土地が、この秋田だということに気づいたのは、この特集を組もうと決めた直後のことでした。

藤本智士（のんびり編集長）



# 標準語の村？

違いの大とは苦強して勉強して生が標準語の発音をマスターしていかないことも多々、なかなか効果は上がらなかつたそうだ。

そんな中、村を挙げて標準語をあやつる不思議な村があった。県南部、現在の横手市内に位置する旧・西成瀬村。村内に

## 標準語操る不思議な村

◇秋田の旧西成瀬村に普及した歴史を掘り起こす◇

北条 常久



らすチャンスと、さっそく西成瀬を訪問。小学校の卒業生に標準語の村の秘密を聞いた。



最初に会った遠藤弘さんと、綿郷後は西成瀬小学校の校長に就任する。彼の標準語教育は一九〇〇

一教師が立役者 卒業後、私は偶然にも秋田市内の学校に国語教師として赴任することになった。年来の疑問を晴

ら、「私はリンゴ農家ですよ」と笑う。遠藤さんが標準語教育を受けたのは、小学校一年生の一年間だけ。そんな短い期間によほど丁寧に教えた教師がいたのだ。

教師の名前は遠藤熊吉(二八七四―一九五二)。

たころ、秋田出身の先生の授業でたまたま標準語の村が話題に上ったのがきっかけだった。秋田の言葉は同じ東北地方の福島出身の私でさえ分から

彼こそ貧しい農村の西成瀬を標準語の村に育てた立役者だ。村で唯一の地主の家に生まれた熊吉は東京で主に国文学を学

った熊吉は、斬新な工夫の数々を凝らした。百間の動きを示した図を使っ

は、一こ音をは「ズース」と「エ」などの発

### その土地の言葉

実は、のんびり秋田チーム(20代〜30代)を含め、まだ若者と呼ばれてもおかしくない世代の友だちのなかに、堂々と秋田弁を話す人たちが何人かいます。特に秋田市内のような町なかにおいては、まっすぐ方言を話すというよりは、どこか恥ずかしさがつきまとうもの。しかも、言葉に対するコンプレックスが最も根深いのがこの県では？

### 標準語の村

そんな僕が、「そうですね」といふより「なんだすな〜」「おいしいですな〜」というより「うめっすな〜」という、味わい深き秋田弁の魅力にはまりはじめたのははや必然。その素晴らしさについて、なかば盲目的に信じはじめ



『標準語の村』遠藤熊吉と秋田西成瀬小学校(無明舎出版)。

### 秋田弁が好きか？

いまのように、みんなが標準語を話せる時代ではなかった昭和初期、「シ」と「ス」、「チ」と「ツ」の区別がはっきりしない、いわゆるズーゾー弁の東北にあって、なぜか、秋田県旧西成瀬村(現横手市増田町)の人たちだけ



「方言と共通語の意識調査」というアンケート結果を見たからでした。

そこには、西成瀬小学校を含む周辺の小学校4校の出身者に対するアンケートが記されており、そのうちのひとつ、「秋田弁が好きか？」という質問に対して「好き」と回答する人の率が飛び抜けて高かったのが、西成瀬小学校の卒業生なのでした。このことは僕の頭を瞬時混乱させました。おそらく、徹底した標準語教育を受けた西成瀬小の卒業生たちは、だからこそ秋田弁の良さにもハッキリと気づくことができたのだと思います。そして遠藤熊吉という人物はきっとそこまで見越していたのだと思います。遠藤熊吉の標準語教育は、方言がダメで標準語がヨシであるといった、二元論的な話ではなく、





その双方を使い分けることを目指したのだと感じた僕は、なんだか一人ドキドキしました。

5月8日

朝9時。今回も秋田在住メンバーに加え、東京や関西からやってきた県外メンバーも大集結したのんびり編集部。先述の話とともに、今回の特集テーマについてひととおり説明を終えた僕は、いまでも会いたい人がいて、実はこの後その人に会いに行こうと思っ  
ていると伝えます。その人とは、『標準語の村』の著者であり文学博士の北条常久さんでした。北条さんは現在、秋田県生涯学習センターのシニアコーディネーターをされているということで、早速全員で生涯学習センターへ向かいます。



きとれない音は出せないんだ。音楽の大学の試験だって、聴音ってのがあるだろ。いい音が聴ければ、いい音が出てくる。だから、遠藤熊吉の授業って「はい」から始まる。秋田県人は、この「はい」の口が広がらないんだ。

矢吹 (のんびり秋田メンバー) はい。

北条 ほら。

一同 ははは。

北条 だからそれは君が標準語で喋っているようにみえて標準語じゃないんだよ。口がこう、開かないんだよ。だから秋田の人たちの「はい」は「はい」じゃなくて「ふあい」なんだよ。

矢吹 そうですね。

北条 例えばあなたが英語の教育を受けたときは、ビデオとかテープを聞いたりして、「はい、発音しろ」と。だけど口の形で教えられてないでしょ。つまり教えるほうも肉体的に教えられなければならない、あなたたちに教えられな



### 北条常久さん インタビュー



一同 よろしくお願ひします。  
北条さん(以下敬称略) どうも。これ、日本経済新聞の記事(平成18年11月10日)のコピーだけ作っておいたのでどうぞ。

藤本 ありがとうございます。

北条 これの一番下のところだけ見てみて。「標準語は秋田でも大分普及したから、熊吉の教育の目的は達成されたかもしれない。昨年、私は仲間の研究者とともに西成瀬の標準語教育の歴史を調査し、その結果を今年インターネットで公開し、『標準語の村』という本をまとめた」その次だ。「人の話をしっかりと聞き、対話の中で自分の意見をはっきりと伝える。他人とのコミュニケーションが疎遠になったと云われる現代だからこそ、熊吉の主張をもっと多くの人達に知ってもらいたい」と。秋田は学力日本一だよな。

藤本 はい、そうですね。

北条 学力は書き言葉で測るでしょ。話し言葉って置いとかれてる。つまりいまの日本の学校教育っていうのは、話し言葉ができてあがっている状態から始まっているから、君たちが「聞く」なんて事を学校教育で受けたことは無いと思うんだよ。でも遠藤熊吉は違う。聞かっていうのから始めるんだよ。聞

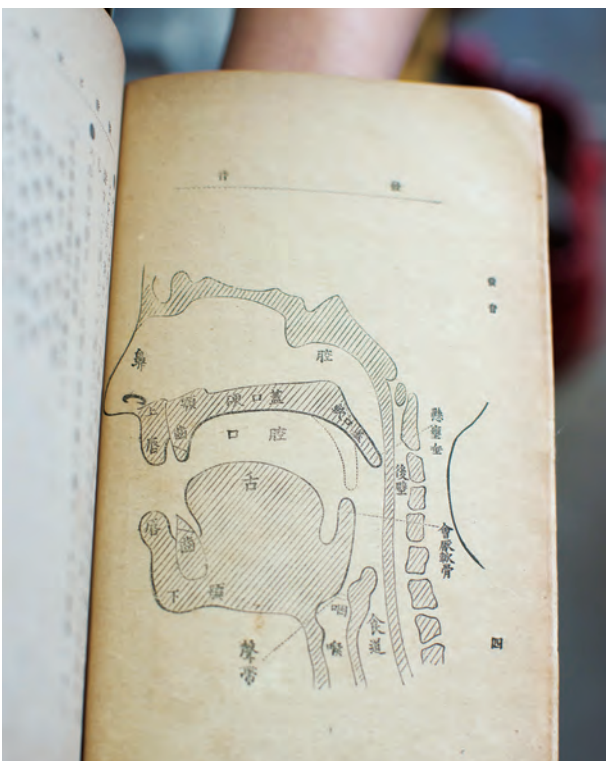
いてっていうのは、秋田の標準語教育が普及して、それを身につけた子どもたちが先生になって、それで授業が活発化されて、それによって育った子が日本一になっていると。

藤本 なるほど。子どもたちが発言できるように育ってるんですね。

北条 そう。その発言できるようにっていうところ。遠藤熊吉は、小学校に入った時点から変えないとダメだって言ってる。だけど、日本の標準語教育っていうのは、すごく差があるんだけど、だいたい他の学校は、学校教育に慣れる2年間ぐらいは地元の言葉で喋っておいて、学校生活に慣れた頃によく、言葉直しましよっていうのが主流だったんだよ。でも遠藤熊吉は違う。小学校1年の段階で直す。遠藤熊吉の標準語教育が他と違うのは要するにバイリンガルなんだと。よく笑話になるんだけど、「先生さようなら」と言ってる、学校の前の川を渡って家に帰ると、「あば、金けれ」(母ちゃんお小遣いちょうだい)ってなるんだよ。

一同 ははは(笑)。

北条 で、また川を渡って学校に入ると標準語になる。でもこれはそうだなきゃ困るんだよ。標準語だけでは地元の人間に密着できねえんだよ。あと、



い。遠藤熊吉は、「喉で「く」とよく言ってたんですが、喉で「く」って言うてごらんさいなって、肉体的に教えられるんですよ。遠藤熊吉の頃の西成瀬小学校には、手洗いの横に鏡がずーっと貼ってあったんですよ。自分で口の形を確認できるように。

藤本 なるほど。

北条 これは『東北地方教科適用発音と文法』という、明治33年に出された師範学校の先生たちが学ぶ本。そのときからこんな感じで、口の形からいつてる。口はこうなってるよと。こういう教育を受けたことはないと思う。口

から勉強して、こう舌を出せ、舌をひっこめろというような教育を師範学校からね。ちなみに現在秋田にはあっちこっちからいろいろ、授業参観にくるんだよ。それでみんなびっくりして「授業が上手い」って言う。ということは、子どもたちがよく発言するってこと。

藤本 はー。

北条 それは先生がいいんだよ。先生っていうのは君たちの年代だよ、それは標準語教育を学んだ連中が次の子どもを育ててるんだよ。そういう意識はハッキリしてないんだけど、育っちゃってる。秋田の教室が素晴らしい



西成瀬にNHKのアナウンサーを連れて取材に行って、彼らが一番びっくりしたのは「おばあちゃん、こんにちは」って言うのと「はい」って出てくる。ふつう秋田の田舎に行ってみて同じように「おばあちゃん、こんにちは」って言うても、「誰も居ねして、オレわがんね」って。家から出てこないもの、だいたいでも西成瀬の人たちは「はい」って出てくるからびっくりする。

**藤本** へえ。  
**北条** データ取ってあるから公開するけど、西成瀬の子どもは秋田弁が好きなんだよ。標準語ができると、方言の良さがわかるよ。

**藤本** 本にも掲載されていたデータですよね。あれは本当に驚きました。遠藤熊吉は標準語を教育せねばって思う一方で秋田弁や方言も重要であると、最初から思ってたんでしょか？

**北条** 思ってたね。っていうのは、遠藤熊吉の家に行くと熊吉の蔵書があるけど、それを見ると、フランスの言語学の本がいっぱいある。東大の先生が持ってたそうなの本がずらっと。それだけ勉強してる遠藤熊吉からすると標準語っていうのは、国が設定している人工語だから、生活の言葉が入ってないと考えてた。標準語のなかにもっと方

言の意を組み込んだ言葉を作りたいっていう気持ちがあった。だって秋田弁でしか表現できないことって、たくさんあるじゃない。例えば、「ぬぐだまってる」なんか。上手いよな。「あつまってる」でもないし(笑)。

**藤本** 味わいがありますよね。  
**北条** そうなんだよ。標準語にはないでしょ。標準語で消しちゃった部分を秋田弁で埋めていきたい。遠藤熊吉はそれを目指してたんですよ。だから、遠藤熊吉は大変な男だな。

**藤本** そもそも標準語教育が始まったのはいつですか？



**北条** だから、表情を読まない。いまの若い人は相手の目見ないもん。

**藤本** なるほど。  
**北条** そうすると、中間管理職の方なんてもう、若い奴が何考えてつかわかんねえと。彼らの言葉を若者が「聞く」というのが無いんだって。遠藤熊吉の「聞く」という教育がいま復活しなければなんないなと。戦後、グループ学習が生まれたときの次の段階に、現在来てるんだよ。「話し言葉」が大切だったという時期に。

**藤本** なるほど。本当にそのとおりだ。  
**北条** 俺のところいろいろとデータがあるけど、秋田弁しか使えないことによつて起こった事件っていうのは、いっぺえあるんだよな。自殺したとか昔は切符を一枚一枚買ってた。それで窓口で「新宿」って言えねんだ。「すんずく」って。「ん？ん？」って相手はわかっているんだよ。からかわれてんだ。だから切符を買わずに新宿まで歩いて行った、なんて話は山ほどある。だから遠藤熊吉が東京に行って西成瀬に帰って見たらみんな卑屈になっている。これを何とかしてやりたいって思うけども、お金をかけないって思うと言葉し

現場で重要になってしまった。そのために標準語教育指導っていうのが日本の教育のメインになっていくんだよ。遠藤熊吉のおかげで、そのときの標準語教育のリーダーが秋田県だった。それまではグループ学習なんてねえんだから。弁論大会とかやらされたり。俺なんかおしゃべりだからすぐ代表だ。一同 ははははは。

**北条** でああ、今日まで来た。今日まで来て携帯を使うようになってから「話し言葉」が消えちゃった。みんな携帯とパソコンだから。いま携帯に寄っているから、社会が全然違ってしまった。いるんだな。昔、俺が聖霊短大の教授だった頃は、学校終われば、学生がその辺の喫茶店でお喋りしたりした。いま、ああいう姿ないから。みんなまっすぐ帰って、家に着いてから携帯メールだから。

**矢吹** そうですね。



遠藤熊吉  
えんどうくまきち

明治7年  
(1874)  
3月1日  
秋田県平鹿郡旧西成瀬村(現横手市)安養寺に地主の息子として生まれた。

明治16年  
(1883)  
荻袋安養寺小学校(後の西成瀬小学校)に入学。

明治26年  
(1893)  
上京し、大八洲学校および国語伝習所(いずれも同じ経営者が開設する私塾)で古典文学を学ぶ傍ら、あるべき標準語の追求・習得に努めた。

明治28年  
(1895)  
帰郷し、隣村の駒形小学校准訓導を経て、

明治29年  
(1896)  
母校西成瀬小学校で教鞭を執った。そこで遠藤が熱心に取り組んだのは、話しことばの指導、標準語教育である。

昭和27年  
(1952)  
8月31日  
遠藤の教育活動は、78歳で没するまで、実に58年の長きにわたるものであった。

遠藤の標準語教育の特徴は、日常言語の陶冶を通じて生活態度全般を陶冶することをめざす点にある。指導法も言語学・音声学の理論の裏づけと、実践的な内容を伴うものであった。当時の一般的な標準語教育が、方言を悪いことばと見なし、矯正しようとするものであったのに対し、遠藤は、方言を純化させることにより標準語に至ると考え、方言自体を否定することはしなかった。

その理念を受け継いだ西成瀬小学校では、独自のことは教育が100年にわたって行われ、「ことばの学校」として、教科書の教材に取り上げられたり、新聞・ラジオ・テレビなどで全国にたびたび紹介された。

遠藤の没後の昭和44年(1969)に、稿本「言語教育の理論及び実際」―方言訛音矯正の実際―を併せた「言語教育の理論及び実際」(遠藤熊吉先生顕彰会)が刊行されている。

※西成瀬地域センターHPより

**北条** 標準語ができたのが明治だよな。昔は隠密を防ぐためにわざわざ方言にしていたんだよ。モニター写真なんてないんだから、問者が入ってきたときに言葉が違えば、すぐとっつかまえることができる。だから標準化はしない。ところが明治になって、日本語を統一しなければならなくなった。でも統一できねえんだよ。違いすぎて。だから標準語っていうのが法律的に生まれてくるわけ。秋田はそれをいち早く、現場に取り入れようと先生を教育した。戦争やるときに国中から兵隊を集めても、東北の人間が来ると「進めー！」

を「シシメー」って言うんだよ。だから西成瀬の人は、戦争に行つてピンタ張られなかったのを学校にお礼に來たつて。でも、秋田市の人が行くと「シシメー」ってなつて、バーンとピンタされる。だから標準語化の波は、明治維新で一回、次に戦争で一回な。それでもう一回くるんだよ。日本が第二次世界大戦に負けたら？ そうすると教育のスタイルが変わるわけ。いままでは学校の先生が言ったとおりに聞いたらよかつた。俺、小学校1年生だったけど、グループ学習とか生徒会とか、そういう「話す」っていうのが教育の





**北条** 昔は家に帰ると、子どもは「まず、草刈」「鶏のえさやり」とかって言われて。でもいまは、「まず勉強せ(しろ)」って。そうやって働いてこたがなくなれば、生活の言葉がなくなり言葉は標準語にいく。そうすると確かに学力は上がるかもしれないけれども、人間性を失うと。友だちがいなくなるとか、そういうことも起こってくる。言葉はやっぱり、生活とともに動くものだから。だから、遠藤熊吉も「言葉は社会だ、生活だ」ってことを盛んに繰り返してるの。遠藤熊吉の西成瀬小学校では喧嘩が無かったっていうんだ。そこで教えてた先生が他の小学校に転動したら、喧嘩ばっかしてるっていうんだけど。つまり標準語で喧嘩はできない。喧嘩するときはきつとね、自分の肉体から出てくるから訛ってるの。ところが学校のなかで、さっきも言ったけど肉体で標準語を発音してるわけでしょ。「はい」ってときは、「はいー」って胸を張るでしょ。だから、標準語で喧嘩はできないです。ハキハキと「僕は君をやっつけるぞ」なんて言ったって(笑)。

**一同** ははははははは(笑)。

**北条** 学校のなかでは標準語しか使っちゃダメなんだから。学校なんかでは

**一同 (笑)。**  
**北条** 俺が非常勤で秋田高専で教えてたときも、あんまり標準語が上手いから「君、西成瀬か？」って聞いたら、「先生なんでわかるんですか」って生徒がいたの。

**一同** へー！

**北条** 草薙くんっていうんだけどね。ある日、その子から電話かかってきた。毎日新聞の全国版に俺の記事が載ってて懐かしくて電話したって言うの。で、「いま何してんだ？」って聞いたら、「警察学校の先生してます」って。警察学校で、巡査が交番でどうやって対話するかってことを教えてんだと。ちゃんと西成瀬で学んだ標準語で生きてる。そういう話はいっぱいある。

**一同** すーい。

**北条** だから、「話し言葉」が武器になるんだ。ちなみにこれは俺の本が出たときに手紙をくれた一通なんだけど。ちょっと読んでください。横浜の人なんだ。

**藤本** はい、読んでみますね。「大変不躰とは思いましたが、11月10日付の日本経済新聞で『標準語の村』の記事を見て手紙を書こうと思いました。私は秋田市の新屋町の出身で現在62歳。市立日新小学校、市立日新中学校(現



秋田市立秋田西中学校)を卒業しました。小学校の学年は忘れましたが、近藤国一さんが校長先生のときでした」

**北条** その人は遠藤熊吉の理解者。広めた人だ。

**藤本** 「あなたがたが、将来、どこで生活しても言葉に困らないように、家では秋田弁を使っても学校では標準語を話しましょう。これを聞いて私は自然に両方の言葉を使っていました」

**北条** バイリンガルだね。  
**藤本** 「級友たちもそれを心掛けました。NHKの学校放送に出していただく機会があり、校長先生と一緒にスタ

喧嘩なんか起きねえと。これは極端かもしれないけど。だからね、発音するときに「お腹を締めろ」って。力を入れて、背筋を伸ばして、こうだよ、「はい」って。それを、テープ聞かしてこのように発音しろっていても無理なんだよ。西成瀬の標準語教育ってのは、肉体的ですから。

**藤本** 西成瀬に行かないとだなあ。

**北条** 連絡してあるの？

**藤本** さっき、地域センターの方に。

**北条** センターの季子さんが遠藤熊吉の最後の教え子だから。実際に教わった人だから。あの人なんか、大阪に就職して、大阪で奥さん口説いて結婚して連れてきたんだぞ。秋田弁では口説けないもんな。秋田の男が結婚できないのは秋田弁しか話せないからだな。

**北条** こんなことがいっぱいある。

**藤本** すーいなあ。

**北条** 秋田でこういう話はいっぱいありますよ。だから君たちが取材やっていくうちに、こういうモノがあればいいなっていうのがわかれば、またね。

**一同** はい、ありがとうございます！





# Welcome! 村



## 標準語の村へ

ユーモアたっぷりな標準語の村について教えてくれた北条さん。そのおおらかさに、なんだかとても心強い後ろ盾をいただいたような気になった僕たちは、その気持ちのままに西成瀬へと向かいます。秋田市内から車を走らせること1時間と少し。午後2時過ぎに西成瀬地域センター(旧西成瀬小学校)に到着。まさにのんびりな場所です、わずかに残った桜の花が美しく、風に舞い散る花びらを眺めていると、たくさんの児童で賑わっていたかつての情景を想像します。

校門を入ってすぐ左手には「一音を一語を」と彫られた碑が建っていました。これは「一音を教えたら一音を、一語を教えたら一語を生活させよ」という遠藤熊吉が残した言葉。北条さんもおっしゃっていた「言葉は生活とともに



動くもの」という言葉が、僕の頭のかかをグルグルとまわりはじめます。

センターの中へ入ると、センター長の季子和春さんが迎えてくださいました。季子さんは西成瀬小学校を昭和29年に卒業、実際に熊吉先生の指導を受けた最後の世代の方です。案内いただくままに地域交流室へと入らせていただいた僕たちは早速、当時のお話を伺うことに。

### 季子和春さん インタビュー

**藤本** 季子さんは、熊吉先生から直接標準語教育を受けられたんですよね？

**季子さん** (以下敬称略) そう。小学1年生のとき。遠藤熊吉は昭和10年には教員を退職してらんだけど、そこから1年生だけに言語指導していたんです。で、私が5年生のときに亡くなっているから。

**藤本** なるほど。じゃあ季子さんも1年生のときに遠藤熊吉さんに。

**季子** そうそう。(兩人差し指で口の





端を広げて)「イー」ってやられた。

一同 ええ〜!?

季子 「イ」の発音が悪いから「イー」って。

一同 (笑)。

季子 あと、熊吉先生はね、近眼なんだな。目と紙をこうやって近づけても見えねんだ。だから自分(熊吉)の孫にだって、こうやって(イーと)指導しても、全然孫だって気づかないでいるんだもん。それで当時誰も乗っていないドイツ製の自転車に乗って、とにかく姿勢が良くてね。でもそのとおりに目が悪くて、学校へ行く途中のあぜ道を自転車で走って、水路へど〜んぶり落ちちゃって。



一同 (笑)。  
季子 近眼も近眼。で、それを我々の先輩がたまたま見ておって、あの遠藤熊吉でさえも「ひゃっこい!」と訛ったって。

一同 あははは。

季子 それを先輩から聞いてね。おもしろかった。

藤本 熊吉先生は、怖かったですか?

季子 いやいや、優しい。ま

ず言葉遣いが優しいからね。

怒鳴ったりとか、全然ないから。「いま君は、こういうことを話していたんだよね」と。ただ、困ったのは、これくらいの(手に収まるくらいの)小石を、ポケットにいっつも入れているの。

藤本 なんのためにですか?

季子 廊下で会って「あ、きみ、きみ」って言って「これなあに?」って。「イスイ」なんていうと、もう、始めっからやりなおし。

藤本 「イス」って言えないといけないんだ。

季子 10分以上かけて。だから、出会いたくなくてね。

一同 あはは。

季子 「きみきみ、これなに?」「イス」

って言えば、「きみ、合格」と。それを「イスイ」ってやっちゃうと、「はい、あいうえおを始めからやりましょう」って。藤本 うわあ、面倒くさい(笑)。  
季子 まあ、そこまで徹底したんでしようね。

藤本 じゃあ、学校のなかでは必ず標準語で話すよ。

季子 そうそう。

藤本 でも家に帰ったら、方言を使ってもいい。

季子 そう。

藤本 へえ〜。

季子 さらにね、ここには吉乃鉾山という栄えた場所があって。その職員のみなさんていうのは、全国から来るんで、そうすると吉乃鉾山の同級生は20人もいるんだけど。その頃ってのは、家へ帰っても標準語なのよ。

藤本 へえ〜。

季子 だってそうして話さないと通用しないんだもん。

藤本 なるほど〜。鉾山のおかげで、当時この村は、標準語と方言の二つが生活していた環境だったってことですね。すごい。ちなみに鉾山はいまどうなっているんですか?

季子 鉾山がなくなって50〜60年近くなる。いまは200人ほどしかい

ないんだけども、この集落。当時は9000人も。

一同 お〜!

—— 事務室となりの遠藤熊吉翁資料館へ移動 ——

藤本 季子さん、あそこにある、『ことば先生年表』って資料、あれはどういうことなんですか?

季子 あれね、毎週、子ども同士で言葉の勉強会やるんですよ。

一同 へ〜。

季子 こうして、(二人向かいあって)イスに座って、みんなの前で二人の対話をするんです。

一同 へ〜〜。

季子 「〇〇さんは昨日、学校から帰って何をしましたか?」とか、「こんな遊びをして、おもしろかったですよ!」というような話しをさせるんです。

藤本 へえ〜。いまもやっているんですか?

季子 いまはやっていない。

藤本 それは、熊吉さんがいらっしやったときのことですか?

季子 いえ、いなくなってから、西成瀬小が閉校する14年前まで。読み、発音朗読、それから対話、さまざまな項目

があつて、それをクリアした者が、6年生くらいになると「ことば先生」のバッジをもらえる。

藤本 「ことば先生」のバッジがもらえる?

季子 そうそう。あるよ。

一同 ええ〜〜!

季子 これこれ。

藤本 わ! 「ことば先生」って書いてある!

一同 かわいい〜〜!

藤本 これ、欲しい!!! 相当かわいいよ。つけない!

季子 5年生でももらえる人と、6年生になってやつとももらえる人とかいてね。

一同 へ〜〜〜!

季子 最終的には、6年生になればもらえるんだけどね。このバッジをもらう資格を受けた者は、1、2年生を指導するんですよ。

藤本 ほ〜〜。先生だ。「ことば先生」っていう名前がいいよね。かわいい。

季子 作文と、発音でしょ、朗読と、対話と、あと弁論大会のように、自分の意見を言いながらみんなの前でね、話す。そういうのを何回も繰り返し返すんですよ。それを合格した人がもらえるの。

一同 へ〜〜え。

藤本 あっ! ことば先生免許状だ。





季子 そうそう。  
藤本 「あなたは、ことばを正しく美しくしていく力を持っています。よって、免許状を与えます。この役目を守って、みんなのことばを良くすることにがんばってください」  
季子 遠藤熊吉が亡くなってから、こういう工夫をしながら。  
藤本 さつき、増田小学校の前を通っ

たんですけど、いろんな小学校が統合されたんですよ。  
季子 そう、4つ。  
藤本 あそこでは、やっていないんですか？  
季子 統合になって、2、3年間だけはやったんですよ。1年生の子ども指導に。でも、うーん。「いまこの時代に、ことば教育じゃないだろう」っていう



意見があって。でも我々は、やっぱりこの伝統はただ「話せる」ってことだけではなくてね……明治の33年から、本格的に日本全体を標準語で広げようとするんだけど、どこも失敗したんだよな。まあ東京方面は別にして。方言を否定して、徹底して標準語教育をしようとしたから。この場合、遠藤熊吉は、方言も一緒にやったのよ。標準語だけでなく、方言を大切にしながら、尊重しながら使い分けできるようにっていう指導があったからこそ長続きました。いまはどこへ行っても、標準語で話してきる時代だから、いまさら



ことば教育って疑問に思えるかもしれないけど、遠藤熊吉は、ただ単に都会に行ったときに困らないようにってだけでなくて、標準語を使うことによって、さまざまな文化を吸収できるし、お互いの意見を尊重しながら自分の主張もできる。そういう幅広い教育目標があったんじゃないかなって。  
藤本 本当に。そのとおりだと思います。あの、まだこの周辺に、他にも教える子の方いらっしゃいますよね？  
季子 ええ。

藤本 どなたか後日でも、お会いできそうな方おられますか？ 熊吉さんに直接じゃなくても、そういうことば教育の指導を受けた方で、会える方を。季子 地域の人たちね……。田んぼのほうで忙しくなってるからな。  
一同 うーん、そっかあ。  
季子 時間は……？



お墓参りへ  
季子さんと別れた僕たちは、ここから歩いてすぐだという熊吉さんのお墓へと向かうことにします。センターにそのまま車を停めさせてもらい、歩き出した僕たちに、すぐさま一人のおじさんが話しかけてきてくれました。  
おじさん どこから来たの？  
藤本 だいたい秋田市市内で、あとは兵庫県とか東京とか。  
おじさん 兵庫県!? それはご苦労さんです。

藤本 お父さんは西成瀬小学校出身ですか？  
おじさん はい。

藤本 遠藤熊吉先生の。

おじさん 熊吉先生からいくらか習いました。朝礼のときに標準語の発音の方法を習いました。月曜の朝礼だったと思います。

藤本 お父さんおいくつですか？

おじさん 私？ いや、若くてね。もうすぐ80歳ですわ。

一同 ええっ!? 若っ!

おじさん いやいやいや。

藤本 やっぱ本当に、言葉がおきれいですね。

おじさん なんていうのかな。この地方から、都会に行った人よりは若干良いと思います。そういう面では、いく



らか楽でしたね。私は、大学が宇都宮なんです。農学部で。だから宇都宮に4年間お世話になりました。やっぱり宮城、福島の方の方言は私よりはひどかったです。  
一同 ふふふふ。

いきなり話しかけてくれた79歳の岩谷権内さん。その気さくなお人柄に驚いていると、向こうのほうで、今度はカメラマンの陽馬くんが、何やら二人のお母さんと話をしています。

佐藤由紀子さんと、

ご近所の

佐藤ヨシさん

一同 こんにちは。  
ヨシさん(以下敬称略) 私たちはお嫁に来たから……。

陽馬(秋田カメラマン) とこがら嫁さ来たっすか？

ヨシ 稲川から……こっちの人は増田から……。

一同 ほ。

ヨシ あや(あら)、みなさん若い。若い方と話っしたい。

一同 あははははは。  
ヨシ 私たちの子どもがたはよ、言葉



がきれいでいろいろな賞状をもらったりして。

藤本 「ことば先生」かな？

由紀子さん(以下敬称略) ええ。

藤本 持ってます？

由紀子 私は、ここの学校の出身じゃないので、私の子どもたちは。

藤本 持ってました？

由紀子 ええ。

藤本 お子さんはいまは？

由紀子 いまはそれぞれ仕事で……。娘は、そのセンターの管理をしています。

藤本 あら！ 本当ですか！ じゃあ、いまいらっしたかな？ 僕たち、



「ことば先生」に会いたくって。娘さんは、まだバッジとか賞状とか持ってます？  
由紀子 捨ててはいないと思うんだけど……。  
ヨシ 先生がたが大変言葉をきれいなさって、子どもたちはきれいですよ。都会に行っって苦労さね(しない)って言ってます。

## WELCOME

お墓までは数百メートルと、歩いてすぐだというのになかなか辿り着けないのんびりチーム。今度は、白樺の木が印象的な一風変わったお家を発見。そこでちょうど庭作業をされているおじさんを発見して声をかけてみます。



見田和光さん

藤本 こんにちは。

見田さん（以下敬称略） こんにちは。

藤本 白樺の木ですか？ 珍しいですね。

見田 これは自生でなく植えたから。

藤本 きれいなお庭ですね。

見田 山の草だけです。

藤本 遠藤熊吉さんについて知りたくてやってきたんです。西成瀬小学校の卒業生ですか？

見田 そうですよ。

藤本 「ことば先生」の賞状とかバッジって……

見田 そんなのあったね。

藤本 お子さんとかが、「ことば先生」のバッジってもらってきませんでしたか？

見田 たいがいもろうからね。藤本 遠藤先生との、直接の思い出はありますか？

見田 いや、ないですね。もう少し高齢の人でない……

藤本 そうですよ。

見田 俺もちょっと高齢だけども。

一同 いやいや。

藤本 でも、標準語教育はありました？

見田 あったよ。最近新聞に載ったりしてね。とっから来たの？

藤本 半分は秋田市内で、他は東京だったり僕は兵庫県だったり。結構バラバラのチームで。

見田 北条先生には？

藤本 北条先生にも今朝会ってきました。

見田 ああ、そうですか。あそこに見える、あの集落が遠藤先生の生家があった……

藤本 安養寺ですね。いまからお墓参りをしようと思って。

見田 あーなるほど。立派な墓ありますよ。ぜひ。



見田さんのお家の勝手口の横に、「WELCOME」と書かれた手作りプレートを見つけた僕は、そこに、この村のみなさんの象徴を見たような気がしました。のんびりチームは、取材現場にできるだけ編集部全員が参加することを心がけています。それゆえ毎回10名ほどの大人数で歩いていると、だいたいは警戒されてしまつて、恥ずかしがりやの秋田の人たちが向こうから話しかけてくれることなんてまずありません。それなのにこんなにオープン

### 突然の出来事

ようやく遠藤熊吉先生のお墓に到着。お供えの用意をしていた僕たちは、周辺に生えていたタンポポを摘んでお参りをします。すると、さっき話を聞かせてくれた見田さんがやってきました。

突然の出来事に呆然としてしまうのんびりチーム。見田さんがわざわざ探して持ってきてくれたのは、昭和44年に遠藤熊吉先生顕彰会が発行した遠藤熊吉著『言語教育の理論及び実際』という本でした。熊吉さんの考え方がまとめられた貴重な一冊を、見ず知らずの僕たちにくださる見田さんのウエルカムさに、僕たちはいよいよ感動を隠せませんでした。

### 安養寺集落

かつて熊吉さんの生家があった場所を確認するべく、さらに安養寺集落を歩いて聞き込みをしていると、「その畑になってるところですよ」と、ある女性が教えてくださいました。その方は、3月まで保育園の先生をされていたという遠藤幸子さん。なんと熊吉さんのご親戚の方でした。まさに秋田美人な幸子さんは、言葉もとても美しく、まるでアナウンサーのよう。その幸子さんとの出会いをきっかけに、僕たちはこの後も続々と町の人たちに出会うことに。ここでそのすべてを書ききれません

が、例えば、遠藤家の家系図（当然熊吉さんの名前も！）を見せてくださった遠藤アサさんというおばあちゃん。子どもの頃にもらった、「ことば先生」のバッジを大切に持っていた佐々木恵子さん。熊吉さんのご親戚で小学校の頃に標準語教育を受けていた遠藤寿一さん

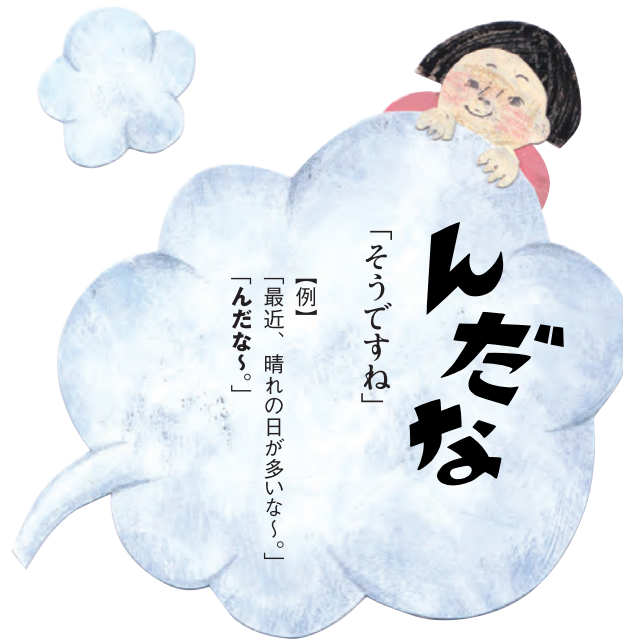
などと。みなさんすべてが、まさにウエルカムな人たちで、僕たちはもはや標準語や方言ということを超えて、この村に受け継がれている精神をこそ伝えなければいけないような気がするのです。



見田 これ、持っつけ。  
藤本 え？ ありがとうございます……。  
見田 あ、これ！  
見田 熊吉先生の本、複数あるからよ。  
藤本 いいんですか!? ありがとうございます！  
見田 いやいや、なんも。







**Akitaben Special**  
**秋田弁**  
スペシャル その①

わらしっごがだ、秋田弁どごわがるが？  
わがらねば、ばっच्याが教えてくれる！

(子どもたち、秋田弁のことわかるか？  
わからなかったら、おばあちゃんが教えてあげる！)



紹介しているものは一例です。  
地域によって異なる場合があります。



# なんも先生

## 市場で雑学

長い歴史のある秋田市民市場で、ぜひとも秋田弁を覚え、使っていってくだ



5月9日

特集取材2日目の朝8時、編集部  
に集合した僕たちは、いま一度、秋田  
弁と標準語について意見を  
交わします。そもそも秋田  
弁を豊かな郷土の言葉とし  
てポジティブに捉えていた  
僕たちですが、それは、標  
準語が当たり前のいまだか  
らこそ芽生える思いなのだ  
ということに気づかされま  
した。特にのんびり秋田メ  
ンバーのほとんどは、進学  
や就職を機に東京などの都  
会に出て、標準語を一回身体に入れて  
再び秋田に帰ってきています。そんな  
人たちが方言の良さに気づくのは必然  
でした。つまり、遠藤熊吉の標準語教  
育において大切なのは、標準語と方言  
がバイリンガルに在るということです。  
そのおかげで、西成瀬の人たちは秋田  
弁に誇りを持ちながら、ほとんどと社  
会に出て行くことができたのだと思っ  
ます。しかし、昨日の体験で驚いたこ  
とは、そのことだけではありませんで  
した。僕たちにとって何より衝撃だっ  
たのは、西成瀬の人たちの積極性のス  
タンスが、自らの意見を主張すること



よりも、相手の話を聞くという部  
分にあることでした。

ここにこそ、遠藤熊吉の標準語  
教育の大きなポイントがあるのだ  
と思います。とにかく人の話をよ  
く聞くことから自らの行動を考え  
動いてくれる。思い返せば思い返  
すほど、西成瀬で出会ったみなさ  
んは、そんなおもてなし方に満ち  
あふれていました。聞くというこ  
とにこだわった遠藤熊吉の標準語  
教育の先にある、このおもてなし  
力こそが、僕たちがいま学ぶべき  
ことなのかもしれない。それが昨  
日の取材を経た僕たち共通の思い  
でした。

なんも

さらに僕たちは、郷土の言葉と標準  
語のバイリンガルな在り方に意味があ  
るとするならば、いまや逆に方言をこ  
そ学ぶべきではないか、とも感じてい  
ました。そこで、秋田メンバーそれぞ  
れに自分が好きな秋田弁について聞い  
てみるのですが、これがなかなか出て  
きません。しかし自分たちの暮らしに  
近いものほど、その良さに気づけない  
のは当然のこと。そこで僕はよそ者の  
目線から、とても良いなあと感じてい  
る秋田の言葉について告白してみます。  
それは「なんも」という言葉でした。

秋田の友人たちは、「なんも」とい  
う言葉を多用するなあ、僕は常々思  
っていました。この「なんも」という  
言葉は、ときに「なんもなんもなんも」  
と繰り返されたり、「なんもだ〜」と  
いったふうに使われたりするので、  
つまりは「なんも何も」ということ  
で、特に「それくらいどうってことな  
いよ」という意味合い  
で使われることが多い  
言葉です。例えば僕が  
「この間はハタハタ送  
ってきちゃってありが





とう。ほんと美味しかったよ」なんて言うと、友人は「なんもだ」と返します。空港まで車で迎えにきてくれた友人に「わざわざごめんね」と言うと、「なんもなんも」と。秋田人特有の奥ゆかしさを感じるこの言葉が僕は大好きでした。そしてこの「なんも」という言葉の良いところは、相手の「ありがとう」という気持ちがあつてこそ出てくる言葉だということ。そこには、方言の味わい深さだけでなく、対話することの大切さと、おもてなしの精神、すなわち遠藤熊吉が標準語教育の先で伝えたかったものすべてがつまつているのではないかと、僕は思いました。

### なんも先生

そのことを秋田チームに伝えると、最初はみんなキョトンとした表情をしていましたが、少しずつその意味を理解してくれたようで、徐々に秋田メンバーも「なんも」という言葉の良さについて口々に語りはじめました。そこで僕はさらにみんなに提案してみます。遠藤熊吉がしきりに繰り返した「言葉を生活させよ」という教え。それに倣うならば、いまこそ僕たちは「ことば先生」という言葉自体を生活させなけ

ればいけません。いまを生きる僕たちが考える「ことば先生」とはどういうことか？ じゃあ昨日出会った西成瀬の人たちはいったい何先生なのか？ あらためてみんなで議論を重ね、出てきたものは、「なんも先生」という言葉でした。

### バッジづくり

標準語を教育する「ことば先生」は、いまの時代に必要ないかもしれない。けれど秋田人特有の奥ゆかしさと、その奥にあるおもてなし精神を伝える「なんも先生」は必要なはず！ そう気持ちを一つにしたのんびりチームは、昨日見た「こと



ば先生バッジ」に倣って、早速「なんも先生バッジ」づくりにとりかかります。文具店で買ったプラ板を使って、たまたま僕が鞆につけていたバッジを参考に、幾度かの失敗を繰り返しながら、バッジを完成させていくのんびりチーム。デザインする人、文字を書く人、プラ板を切る人、焼く人、色をぬる人、乾かす人。もはやのんびり恒例となった突然の作業大会に、自然と役割分担していくのんびりメンバーのチームワークは手前味噌ながらなかなかのもの。



のうまいものを全国にPRする仕事をしていた前職の頃。まだ30代だというのに、強烈な秋田訛りで秋田の食材について語るはなゑちゃんに、僕は秋田という土地の豊かさを思い知らされた気がしました。そもそも今回の特集を思いついた原点に彼女の存在があったことをここで告白します。

さらに言うならば、僕が「なんも」という言葉に魅力を感じたのは、彼女が言う「なんも」に惹かれたからと言っても過言ではありません。自分のなかの迷いを解消するためには、どちらかに転ぶにしても、はなゑちゃんに話を聞く以外にはないと思いました。しかしその夜、県庁の近くにある居酒屋に来てくれたはなゑちゃんとの会話は、僕の迷いと不安を一気に吹き飛ばしてくれるところか、今回の特集において僕たちが伝えたかったことのすべてがつまっているのでは？ とさえ思いました。ぜひ読んでみてください。

そんななか、のんびり編集チーフのヤブちゃんのもとに、西成瀬地域センターの季子さんから電話が。明日の午後1時半、熊吉先生に直接教えを受けたいという年配の方と、その後のことば教育を受けた若い世代（30〜40代）の方5人がセンターに集まってくれるとのこと。明日みなさんからお話を聞いた後、最後に「なんも先生バッジをお渡ししよう！」といよいよ盛り上がるのんびりチーム。しかし、実のところ僕は不安でした。

### はなゑちゃん

熊吉先生が標準語教育の先で伝えたかったであろう精神の象徴が、「なんも」という言葉にあるかもしれない。僕たちのこの思いつきを西成瀬の人たちは理解してくれるだろうか？ バッジと一緒に渡す「なんも先生免許状」の文章を考えながら僕は、正直不安でいっぱいでした。そこで僕は、今夜ある女性に話を聞くことを決めます。その女性の名は、加藤はなゑ。現在は、秋田地域振興局・農業振興普及課というところで、秋田県の農業の根幹を支える大切な仕事をしています。そんな彼女と最初に出会ったのは、彼女が秋田県

### 加藤はなゑさん インタビュー





藤本 はなゑちゃん、急にごめんね。ありがとう。

はなゑちゃん(以下敬称略) いやあ、なんもなんも。たいしたことじゃあねえっすよ。

藤本 いまは、農家さんをまわってるの？

はなゑ んだんすよ、現場に戻った。果樹園をまわって、調査したり。

藤本 何を調査するの？

はなゑ いままず「あゝ、花咲いできたっすな〜」って言って。

一同 (笑)。

はなゑ 「いやゝ、花摘み、忙しっすべ〜」って。「んだ〜。まず、おめだちど(お前たちと)喋ってる暇ね(ない)〜」って。

一同 はははは。

藤本 って言われるんだ。

はなゑ 言う人はいねけど……見えるよ！

一同 ははははは。

はなゑ 「あゝ申し訳ない〜」みたいな。藤本 はなゑちゃんは技師さんなの？

はなゑ そう。技術採用で。で、農業職採用なんですよ。採用枠が、行政職と専門職ってのがあって、私は専門職の技術採用。んで、稲作・野菜・果樹・花・畜産って、まずだいたいうつに別れて

いて、入ってから「あなたは〇〇担当だ」って言われるわけですよ。で、私、千葉大学で落花生をやってきたんですよ。まあ、それは秋田県では使えないですよ。まあそれは良いですけど、作物研究室だったんで、「稲作か野菜だな〜」って勝手に思ってたから、「あなた果樹担当だから」って。「ええ〜！



果樹がぁ〜！」ってなってる。なんでがっていうと、大学のときに、果樹が一番こう、言っちゃ悪いんですけど手抜いだったって言うか。

一同 はははははは！

藤本 そもそも千葉の大学に行ってるときって、言葉のことは困らなかった？

はなゑ あ、言葉？ 言葉は恥ずかしくて。

一同 う〜ん。

はなゑ で、誰もいまは信じないけど、私は訛ってないと思っただんだ。でも4月に大学の入学説明会あるじゃない

ですか。そのオリエンテーションに行ってる初めて、自分が訛ってるのがわかるわけですよ。

藤本 うん。うん。

はなゑ で、恥ずかしくて思って、3ヵ月間喋らねがった。

一同 え〜〜!!?

はなゑ 3ヵ月間喋らないで、この私が。

一同 (笑)。

はなゑ それで朝はNHKですよ。NHKで、聞く聞く聞く。ニュースを聞く聞く聞く。で、もう友だちが喋る会話も聞く聞く聞く。……って3ヵ月我慢したら、訛りが出なくなっただですよ。

一同 へえ〜！

はなゑ もう、頭のなが(中)が切り替わったって言うか。

藤本 へえ〜。ずっと聞くこと？

はなゑ そう。ずっと聞いて、ふあんって切り替わって、訛りが出なくなっただわけだ。まあ、自分が多分、こう頭のなが(中)で、繰り返ししてるんですね。発音を。ニュースの人が言うことに対して同じことを同じく繰り返すわけ。その、イントネーションの違いを繰り返し繰り返し繰り返してずっと聞いて、朝のニュース、夜のニュース、ずーっと聞いて、3ヵ月それやったら、もう

訛らなくなった。

一同 へ〜。

はなゑ というか、言葉が違うぐなっただっていうが、声のトーンも違うぐなっただって思うんですよ。ちょっと上がって、多分、言い方もキツかったんだろな。その、あっさりしているっていうが。

藤本 うん。

はなゑ まあ、東京の人のようかって言えば変だなあ、何て言えばいいのがなあ。

藤本 まあ、こんなもっちゃりはしてないわな。

一同 (笑)。

はなゑ そう、もっちゃりはしていない。

藤本 いま標準語話せる？

はなゑ できない！

一同 (笑)。

はなゑ それで、秋田に帰ってきて、今度農家の人だちと付き合うようになったらそれしか出ないわけですよ。

藤本 あっさりしたほうしか？

はなゑ あっさりしたほうしか。そうしたら「あれ、なんだこれ(この人)？こんな洒落たことば使って」って。今度、それがまた、コミュニケーションの邪魔になると思ったわけですよ。それからまた3ヵ月間喋らないで。藤本 す〜い。

はなゑ 今度は農家の人の言葉を3ヵ月聞いてたら、自分が高校にいるとき以上に訛ってきたの。

一同 (笑)。

はなゑ よりネイティブに。

藤本 吸収力すごいなあ。

はなゑ よ〜聞いてだな。喋り方とが、言い回し、こういう単語使うとが、こういうときはどういふふうに対応するの、っていうのをじい〜い〜とここう、観察したっていうが、そうして3ヵ月我慢したら、親より訛った。

一同 あはははは。

はなゑ 親より上の年代の人が多いじゃないですか、農家

ですか。そのオリエンテーションに行ってる初めて、自分が訛ってるのがわかるわけですよ。

藤本 うん。うん。

はなゑ で、恥ずかしくて思って、3ヵ月間喋らねがった。

一同 え〜〜!!?

はなゑ 3ヵ月間喋らないで、この私が。

一同 (笑)。

はなゑ それで朝はNHKですよ。NHKで、聞く聞く聞く。ニュースを聞く聞く聞く。で、もう友だちが喋る会話も聞く聞く聞く。……って3ヵ月我慢したら、訛りが出なくなっただですよ。

一同 へえ〜！

はなゑ もう、頭のなが(中)が切り替わったって言うか。

藤本 へえ〜。ずっと聞くこと？

はなゑ そう。ずっと聞いて、ふあんって切り替わって、訛りが出なくなっただわけだ。まあ、自分が多分、こう頭のなが(中)で、繰り返ししてるんですね。発音を。ニュースの人が言うことに対して同じことを同じく繰り返すわけ。その、イントネーションの違いを繰り返し繰り返し繰り返してずっと聞いて、朝のニュース、夜のニュース、ずーっと聞いて、3ヵ月それやったら、もう

って。なので、そういう世代の言葉を聞ぐっていうことは、親よりは当然訛るよなあって。

藤本 確かに。でもそこでコミュニケーションシヨンののはまた大変だよな。

はなゑ 先輩たちは、おとこ(男)の先輩が多いですけど、タバコ吸う人だけ羨ましいですよ。

藤本 あ〜。タバココミュニケーションだ。

はなゑ そう。まずは、何も言わねくても果樹園行ったら、「あゝ、まず、(タバコ吸う)……いやあゝ、はがえってるすか？」って聞くんです。わがりますか？

藤本 わかんない。

はなゑ 作業は順調ですか？ はかどってますか？ ってことです。

藤本 へ〜。

はなゑ で、農家は「……ん〜、まずな」って言うわけですよ。「まずな」っていうのは、イエスでも、ノーでもはなゑ&秋田メンバー ない(笑)。

藤本 濁したんだ。

はなゑ で、先輩はそこで、まず1本吸って、農家の人も。「……(タバコ吸う)……」って、何も喋らねえ(笑)。

一同 (笑)。

はなゑ こっちは、「あれ〜!? あれ〜!?」って。



一同 (笑)。

はなゑ 「次は？」って。でも、その間が大事なんですよ。

藤本 間がね。

はなゑ 「……(吸う)……はあ〜(煙を出す)」ってやって。なんつとも言えない、間。

で、そういうふうな話をするのがなってお互いが思うじゃないですか。それで、ぼつらぼつらと喋っていくわけですよ。

藤本 いきなりは喋らない。

はなゑ 「うん……まらずな」って言った後に。「まずな」ってなんだ？ っ。

一同 はははは。

はなゑ それで、畑の木を見ながら「お〜……だいふ……芽え開いできだっすな〜」って。

一同 はははは。

はなゑ 最初は「んだんだ〜、まず、去年より早いから？ 遅いから？」って聞かれる。せば、私だちはいろんな花芽調査で、発芽して木がどうなっ



って、10年分の平均の値と、前年がどうだったかというのを把握しているんで「いや〜、いづもの年より1日2日はえ(早い)っすや〜」って言えば「あ、んだが(そうか)！」って言うってくるわけですよ。「いや〜、俺もそう思ったっけ〜！」とがって。

一同 ああ〜。

はなゑ 「んだっすよ、ちょっとこれながら忙しくなるっすよね〜」って話せば、「んだ〜」って。「いや〜、もうじ



き、〇〇の準備しねばいげねくてな〜」って。こうなれば、だいたいの時期にどういう作業が入るのがっていうのがわかる。こういう話を何回か何人かにすればだいたいその集落なり、その近辺が、どういう作業で動いていぐのがっていうのが、わかるわけですよ。それで、確認していくわけだ。だって、農家の人が、「〇月〇日、何しましたか？」って、そんな話さ、いちいち付き合ったられないがらっすよ。

藤本 したら、「まずな」ってなるよね。そりゃあ。

はなゑ まあ、「まずな」って

いうのは、秋田県人の特徴っていえば、特徴なんですよ。

藤本 そうだよな。

はなゑ はっきり言わね(言わない)がら。

藤本 先送りするからね。

はなゑ 人と人との繋がりは、パシッと切ることでもできないし、「まずな」って言うことで、そこらへんを、こう……繋ぎ止めつつ……。

一同 ふふふ。

藤本 実は、なんかね、秋田弁っていういろいろあるけど、一番好きな秋田弁って何かな〜って考えたの。

はなゑ うんうん。

藤本 僕は神戸から来てるから、何かとみんな良くしてくれるでしょ。それで有り難いなあと思って。「ありがとうございます」って言ったら「なんもなんも」って。

はなゑ うんうんうん。

藤本 この「なんもなんも」って言葉、すごい良いなと思ったわけ。だけど、秋田弁を使ったポスターとか、そういうものに「なんも」って出てるの見たことない。

はなゑ 確かに。出でこね〜な。

藤本 でしょ。でも、いい言葉でしょ？

はなゑ うんうん。「なんもなんも」は、

相手に「気にするな」って。

藤本 「たいしたことない」「かまへんかまへん」っていう。

はなゑ うんうん。そう。「なんもなんも！」って。「ま〜、なんもなんも！これ持ってげ〜」って。

一同 ははは。

藤本 相手方の気持ちをおもんばかっている感じがする。

はなゑ そう。相手がいるから「なんもなんも」があるんだやな。

藤本 そうだよな。「ごめんね」って言ったなら「なんもなんも」って。これさらに言うとき、「ごめんね」って言うってくれたり「ありがと〜」って言うってくれる、相手もいいんだよね。

はなゑ そう！ 嬉しい。そう言うってだけ(言ってくれた)、気にしてけだんだって。「あ〜、なんもなんも！」って。

藤本 その関係が、いいんだよね。

はなゑ そうだ。いい言葉だ。どうしたらいいんだ。

一同 !?

はなゑ こんないい言葉を、どうしたらいいんだ。

一同 あー(笑)。

藤本 どうしたらいいと思う？

はなゑ んだな〜……。まず飲むが。一同 わははははは。

はなゑ でも、他の県でもそういう言葉あるっすべ？

藤本 うん。でも、微妙に違うと思うなあ。関西だと「かまへん(構わない)」っていうのは、何となくそういうことに近いかなあと思うけど。

はなゑ んだな。

藤本 「なんもなんも」っていうニュアンスとは若干違うというか「かまへん」っていうのはさ、こっちが若干上の立場。

はなゑ うーん。なるほど。

藤本 先輩が「ありがと〜な〜」って言うてくれて、「いや、かまへんかまへん」とは言われへん。

はなゑ んだな！ それは確かに。藤本 けど……。

はなゑ 「なんも」は上の人にも言うがらな。「あ〜、なんもだすなんもだす」って。まあ、これは付くけどね。(手でなんもなんもの動き) この動作は。

矢吹 みんな、こぞってこれだよな。

はなゑ そう。(動作なしで)「なんもっす！ なんもっす！」って。は言わねえわけだすよ。(動作つきで)「いや〜、なんもっす！ なんもっす！」って言うっすべ。

矢吹 なるよね。

はなゑ やつぱり、恥ずかしくてこうなるのがな。

矢吹 「私のようなものが！」って。

はなゑ なるよな。

藤本 へりくだるよねえ。

はなゑ 言うっすべ？ 「なんもなんもなんもなんも！」って必ずこう、(手を扇のように振る)やる。

一同 (笑)。

はなゑ まず、そういう他人行儀みたいなことやめようよ！ って感じたやな。

藤本 そうだよな。

はなゑ 近所のおばちゃんが、ワラビ採ったどがね。持って来たときに、「いや〜、なんとこんなにもらって申し訳ねがったこと〜(いや〜、こんなにもらって申し訳ない！)」って言えば、おばちゃんたちが、「いや〜、なんもだ！





なんもだ！」。

一同 わははははは(笑)。

藤本 でも、こんなみんな(秋田チーム)も、はなゑちゃんいなかったらあんまり秋田弁が出てこない。

はなゑ ほー。せば、ヒアリング頑張らねばねな。

一同 ははは。

藤本 はなゑちゃん、先生になれるよ。

はなゑ んだすか？ やれるべが。

矢吹 ちょっとまって。手だけでも表現できる！ 手振りながら、ちょっと後ろに下がっていきい。

はなゑ んだんだ。

矢吹 先生、やってみて。(みんなで実演)

藤本 じゃあ、はなゑちゃんのこと「なんも先生」って呼ぼう。

一同 なんも先生だ！



はなゑ そんなー。なんもだ。

一同 わはははは！

藤本 実は、ちょっと、これを……なんも先生免許状。第1号！

はなゑ まじい！?

藤本 加藤はなゑ殿。

はなゑ うれしっ！

藤本 「あなたは、標準語」と方言をうまく使って対話することで、相手の気持ちをくみとり、人を喜ばせる力を持っています。よって、免許状を与えます」！

はなゑ おおあー！

一同 わー!!! (拍手) なんも先生〜！

はなゑ いや、申し訳ね〜！

藤本 なんもなんもなんも……。

一同 (笑)。なんもなんもー！

はなゑ いやあ、なんとしよ！ いや嬉しい！ 嬉しすぎる。

藤本 ちょっと、これ開けてみて。

はなゑ おおー(なんもバッジを手に)うわ！ かっちょえ！ わーお!!

一同 はははは。

はなゑ えー！ どうする、これ。いやー！ ちょっとー！ いや、うれし。(バッジ、付け終わる)

一同 おー！



藤本 いいね！ なんも先生！

はなゑ いやあ、しょしな(恥ずかしいな)。

藤本 記念すべき第1号だよ。

はなゑ いやあ、うれしー。

一同 (拍手)

はなゑ すげ。すげぐねっすか？

藤本 いがった。

はなゑ だって、なんか、認めてもらえだ感じがして。

一同 おー！ (拍手)

はなゑ やっぱり、自分でもたまにこんなに訛ってでいんだべがって思うけども。まれにありますよ。とあやう。

やっぱりちゃんと喋ったほう良いんだべがって。でも、これが自分の言葉だからなあ。

藤本 うん……。



はなゑ て、思う。いや、嬉しいな。

矢吹 うふふふ。なんもだ。

はなゑ いやー、嬉し。嬉しいなー。頑張ります。

藤本 やっぱ「なんも」っていいな。

はなゑ 「なんも」いっすや(良いですよ)。やっぱり、相手を思う気持ちって良いと思わねすか？ 「なんもだ」って。一同 うん。

はなゑ 気にするなって。なんもだって。だってやっぱり、「あーやっちゃったな」って思うとぎってあるすべ？

矢吹 うんうん。

はなゑ でもそこで、「いやー、なんもだ、なんもだ」って言うてもらえれば、すごく救われるじゃないですか。お互いさまになるんすよね。お互いさま。

自分もそうなるときあるし、相手もそういうふうにいるときあるが、やっぱり相手を大事に思う気持ちがあるがら、「なんも」って言えることが活きるんじやねえかなあ。

一同 うーん。

藤本 あらためて良さが、ハッキリわかった。

矢吹 やっぱり、はなゑちゃんに会うまでも考えたけど、会ったら明確になりましたよ。

はなゑ んだがー。いやー、嬉しいな。こうやって巡り合わせていただいたご縁だな。

矢吹 「なんも」って使うとき、そういう気持ちなのかもしれないね。

はなゑ んだな。

矢吹 「私なんぞが、嬉しいな」っていう。

はなゑ んだな。やっぱりですよ、相手に反応してもらったっていう嬉しさがあるんだよな。

矢吹 謙遜もあり、感謝もあるんだよね。

はなゑ で、相手に対する思いやりもあるんだよな。

一同 うん。

はなゑ やっぱりこう、あなたと一緒にいたい、あなたと繋がりを持っ

ていたっていうのがベースにあるがら、やっぱりこう、相手を思わなければ、出ない言葉なんすよね。

藤本 そうだねえ……なんも先生さすがだなあ。

一同 いよっ！ (拍手)

はなゑ いやー恥ずかしい。とっても恥ずかしい。ちょっと真面目なご言っちゃったよ。ははははは。

一同 はははは。

藤本 いやー本当に今日はありがとう！

はなゑ なんもだ。

一同 あはははは！







**Akitaben Special**  
**秋田弁**  
 スペシャル その②

おもしろ秋田弁、まだまだあるぞ！  
 じっちゃんの実似して言ってみれ～！  
 (面白い秋田弁はまだまだあるよ！  
 おじいちゃんの実似して言ってみて！)

**かます**

「かき混ぜる」  
 【例】「カレー焦げねように、かましてけれ〜」

**ちよす**

「ぶじる、もてあそぶ」  
 【例】「傷口」  
 あんまりちよすな！」

**こでらえね**

「最高、とてもよ〜」  
 【例】「温泉のあとの一杯はこでらえね！」

**ぼっけ**

「フキノトウ」  
 【例】「ぼっけごこ、天ぷらにせば、んめど〜」  
 (フキノトウを天ぷらにするとおいしいよ！)

**け**

「来なさ〜」「食べなさ〜」  
 「かゆ〜」

**じんご**

「お金」  
 【例】「じんごけれ」  
 (お小遣いちようだい)

**きいっ**

「あつ、しまった」  
 【例】「あや、さいっ〜」  
 (忘れ物した〜)

**がっ**

「漬け物」  
 【例】「ぼっちゃがこたがっ、んめな〜」  
 (おばあちゃんが作った漬け物おいしいね！)

**めんけ**

「かわいらしい」  
 【例】「秋田犬はめんけな〜！」



紹介しているものは一例です。  
 地域によって異なる場合があります。



# なんも なんも 村



5月10日

朝9時半に秋田市内を出た僕たちは、11時半にひとまず、「道の駅・十文字」に到着。秋田県横手市十文字は、かつて羽州街道と増田街道が十文字に交わる辻だったことから、増田十文字と呼ばれたところ。十文字ラーメンと呼ばれる、煮干や鰹節などを出汁に使った、あっさり醤油味のラーメンが名物ということで、まずは腹ごしらえと、その創業が十文字ラーメンのルーツと言われる「マルタマ食堂」で昼食をとることに。



透きとおったスープと、中にためたう縮れ麺がなんとも美しいラーメンを、一気に平らげて店を出ようとしたそのときのこと、「なんと!」という言葉とともに、いきなり僕の腕を掴んできたのは、まさかの、はなゑちゃん! 「なんもなんも」ではなく「なんでなん



で?」と、のんびりチーム大興奮。これから県南に住む親戚に会いに行くというはなゑちゃん、同じくまずは腹ごしらえと「マルタマ食堂」に入ったこと。いやあ、驚きました。

## 西成瀬小学校 OB・OGのみなさん

まさかの「なんも先生」との出会いを経て、少し早めに西成瀬地域センターに到着した僕たちを、一昨日と同じく季子さんが出迎えてくれます。そして約東の午後1時半、西成瀬小学校OB・OGのみなさんが続々やってきてくださいました。集まってくださったみなさんは以下のとおり。早速お話を伺います。

佐藤榮子さん(昭和24年卒)  
見田忠夫さん(昭和26年卒)

季子和春さん(昭和29年卒/西成瀬地域センター長)

藤原秀雄さん(昭和52年卒)

佐々木恵子さん(平成3年卒)

佐藤瑞穂さん(平成8年卒/西成瀬地域センター事務)

藤本 みなさん、お忙しいところありがとうございます。早速なんですすが自己紹介をお願いしてもよいですか?



佐々木さん(以下敬称略) はい、佐々木恵子です。熊吉先生の出身集落なんですけども、いまは先生の家がないことで、あまりわからないんですけども、勉強会などでいろいろ教えていただいています。訛りは、すごい出ます(笑)。

一同 はははは。  
佐々木 お願いします。  
一同 お願いします。

藤原さん(以下敬称略) 昭和52年卒業。現在49歳。1歳の孫がいます。



一同 ええー!!?  
藤原 小学校の頃は標準語を話していた、高校を出てから東京へ行ってきたんで、(標準語は) ほとんど話したんですけども、またこっち(秋田)にどっぷり浸かってからは、ほとんど秋田弁しか(笑)。標準語と秋田弁と半分、二カ国語みたいな感じです。よろしくお願いします。  
一同 よろしくお願いします。



季子さん(以下敬称略) このセンター長をしております、季子和春といいます。昭和29年卒業。5年生のときに遠藤熊吉が亡くなってらるんですよ。だ



からそれまで、短い期間ですけれども直接遠藤熊吉と触れた経験があるということ。この標準語教育のことは歴史的な遺産として残っていますけれども、どうしても無形文化財なんです。言葉だから。

一同 うーん。

季子 だから、どうしても風化しやすい。で、地元のみなさんは、あまり意識をしていない。

藤本 そういものですよ。

季子 この子どもたちも、どの学校でもことは教育するのはやっつてるもんだという感覚で。

藤本 うんうん。

季子 あの、私は横手高校卒なんだけども、しょっちゅう教科書を読まされたんですよ。

一同 うーん。

季子 なんて俺ばっかり当てられるんだって思ったら、先生が「お前、西成瀬だろ」ってね。

一同 へえ〜!!

季子 そこで、初めて。ふだんは我々も方言で、同じ学校仲間どうしでも方言で話してるんで、特別そんな意識もなかった。ところが、「お前、西成瀬だろ」って読ませられることで、西成瀬だけがこういう教育しておったんだ

なっているの初めて気づいて。いまはまわりの方にいろいろ評価していただいているってことで、今回も非常に有り難いなと思っています。まず、よろしくお願いします。

一同 よろしくお願いします。



見田さん(以下敬称略) 見田忠夫です。

77歳になります。東京から戻って来て約50年経っています。昭和26年卒業です。一番の思い出といいますか、高校の修学旅行の汽車の中で、喧嘩が始まったんですよ。他の高校の、忘れもしない北海道の美唄工業高校(2013年閉校)。美唄工業といいますが、その当時はラグビーがものすごく強い。で、喧嘩が始まって、友だちが僕を呼びに来て「なんだ？」って言ったたら「話を通じない」って言われて。

藤本 ああー。

一同 ははははは。

見田 それで、私は通訳代わりに。

一同 ははははは。  
矢吹 喧嘩の通訳。  
見田 それで、言葉っていうのはこういうもんかなあと。  
一同 うーん。  
見田 遠藤先生とは、おそらく2回くらいしかお話をしたことがないと思います。いまは農家の百姓をやっている毎日医者通いみたいな。

一同 いやいやいや。



佐藤さん(以下敬称略) 佐藤榮子です。

一同 よろしくお願いします。

佐藤(榮) 私は、昭和24年に小学校を卒業で、ですから9月で78歳です。

藤本 わくお若い。

佐藤(榮) 昭和40年に学校給食が始まったときに、ここ(西成瀬小学校)に勤めさせてもらったんです。

一同 へ〜。

佐藤(榮) そのときに、「ことば先生」



っていうのをやりましたんで……。藤本 我々にとっては、給食のおぼさ

藤本 なるほど。

佐藤(榮) (笑)。それで、「ああ、ことばの教育、頑張っているな」と感じましたし、私もすぐ愛知県の方に就職したんですよ。そのときに、言葉に不自由したってことはないですね。

一同 ほーー。

佐藤(榮) 私は、1回だけ熊吉先生と触れ合ったことがあるんですよ。

教室に来て、姿勢から正されたんです。

一同 はあ〜。

佐藤(榮) 姿勢良くして、発音しなければ発音できないということ、だから喉で「う」だの「く」だのって、一音一音やりましたけど。

一同 へー。

佐藤(榮) いまはまず、東京のほうから電話がくれば言葉が変わってくるんですよ。やっぱりこっちにいれば「んだすか」とか言うけども、「そうですな」って変わってくるんですね。

一同 ああ。

佐藤(榮) だから、相手によって使い分けしております。ふふふ。

藤本 すごく。

佐藤(榮) まずこんなもんで。

一同 ありがとうございます。



佐藤さん(以下敬称略) 佐藤瑞穂と

申します。この施設の職員をさせていただいてます。この小学校の出身で、ことば教育を受けたことになるんですよけど、ちょっと当時の記憶があまりなくて、でもお話を聞くうちに思い出せたらいいなと思っています。

一同 うんうん。

佐藤(瑞) よろしくお願いします。

一同 よろしくお願いします。  
藤本 みなさんいまは、僕たちに合わせて標準語で喋ってくれてるんですね。

みなさん (うなずく)。  
藤原 とりあえずは。

一同 ははははははは。

藤原 やっぱり電話って話がありましたけども、私は仕事の取引先が東京・仙台とかなので、電話取るとやっぱり急にクツとなるんですよ。

藤本 なるほど。やっぱり両方喋れるってのがおもしろいですよね。しかもみなさん、すごくきれいな言葉で。

正直僕たち、秋田県をいろいろ取材してまわっていると、特にご年配の方の話はもう半分もわからないというか……。

みなさん ふふふ。

矢吹 県外メンバー、みんなポカーンとして。

藤本 ただニコニコしてるしかないっていう。

一同 (笑)。

藤本 あの「ことば先生」っていうのは、

実際どういうものだったんですか？

藤原 我々の頃は、先生が何人かいて読書させたり、あと昔は歌みたいなものもあったんですよ。

藤本 へえ〜。  
藤原 「朝日があかるい あいうえお」  
「垣根にカラスが かきくけこ」とか。

一同 へえ〜。

藤原 そういうのをやったり、あといろいろ作文読んだりしたかな？ 最近の若い人たちは、また違うみたい。

季子 対話式だべ。集団のなかで発表するとか。

佐々木 対話は、え〜と試験のとき？

藤原 試験。あったべ。

藤本 児童同士で、自由に話をさせて。藤本 へえー。フリーセッション!

藤原 あと、「あー!」って声出すときに、「お腹触ってみれ」って言って。「腹へこんでねば(へこんでなければ)嘘だよ」と。

一同 へえ。

藤本 子どもだから余計に、知識というより体で覚えさせるほうがいいってことだったんでしょね。実は、一昨日初めて西成瀬に来たときに、熊吉先生のお墓の場所を教えてもらって、ここに車を置いて歩いていったんです。

そしたらまず最初は、すぐそこにお住まいの岩谷権内さんが、「どこから来たの？」って。

みなさん ははははは。





藤本 声かけてきてくれたわけです。そしたら今度は、白樺を植えてる不思議なお家の見田和光さんに出会ったんです。

みなさん ふふふ。

藤本 あ、その前に瑞穂さんのお母さんにも会いました。

佐藤(瑞) (笑)。

藤本 で、お墓参りして、安養寺のほうへ行こうかと思ってるときに和光さんが、いつのまにか僕らのそばまで来てくれて。熊吉先生の本あるじゃないですか。あれを「これ持ってきて」って(笑)。

みなさん (笑)。

藤本 もうね、ここからお墓までたった数百メートルの間なのに、僕たち、この村はやっぱ変だっと思っていました

(笑)。  
みなさん ははははは。

藤本 僕ら、いつもこの大人数で取材をするんですけど、どこの集団だからかない人たちが、立派なカメラ何人も持ってるね。

みなさん ふふふ。

藤本 いきなり自分たちの集落にやってきたら、ふつうは「なんだ？」って不審がるものですよ。もしくは見て見ぬふりするとか(笑)。

みなさん ははは。

藤本 でもそれがふつうなんですよ。だけどこの町の人たちのウエルカム減はいい何なんだろうって思ってる。それで、和光さんの家の勝手口を見たら、「WELCOME」って書かれてる。

みなさん ははははは！



藤本 まさにそのとおりだよ。でも本当に、それはやっぱ姿勢を正して腹から声を出すじゃないですけど、そうやって前に出られる、っていうか。どっかで気持ちが開かれていることに繋がっているんだなって思うんです。

みなさん うーん。

季子 確かに地域みんなですよ。やっぱり、それだけの指導を受けたことによって、人前で堂々と話をできるようになる。

藤本 そうですよ。

季子 中学校4つで、弁論大会をやるんですよ。その上位4人中3人は、西成瀬小出身なんです。

一同 へえー。

季子 常に、それだけ、堂々と発音す

るってことです。臆することなく。それが生活態度まで浸透していた。だからことば教育は、ただ話し方の問題じゃなくて、生活態度を変えるっていう。

藤本 そうですよ。でも残念ながら「ことば先生」とか、そういう教育が現在はないじゃないですか。でもそれがなくなる背景には、標準語を取り巻く環境の変化があるから、それはそれでわからなくもないと。だけど、熊

吉先生が目指したものっていうのは、ことばを喋れること自体ではないですよ。ね。

みなさん うん。

藤本 いわゆる「ことば」や「標準語教育」といった、そういう表面的な部分を捉えられると、「かつてのもの」でひたすら風化しちゃう。けれど、僕はこの地域の人たちが、こうやってすぐ心に開いてくれることとか、脈々とあるウエルカムな空気こそ意味があると思うんです。そこの教育みたいな



ことがいまの子どもたちに必要なんじゃないかなあ？ っていうのが、僕らの意見なんです。実際、いまの子どもたち。それこそみなさんのお子さんとかお孫さんとか、どうですか？

見田 いまはやっぱテレビとかで、日本全国北海道から沖縄まで全部同じような表現してるし。毎日の暮らしがもう、感覚的に東京の真ん中で生活しているのとおなじような感じじゃないですか。

季子 子どもたち、方言知らないもん

な。

藤原 逆に方言知らない。

一同 あー。

藤本 いま、逆に方言教育が要るのかもしれないですね。それで実は僕がすごく好きな秋田弁があって、それは、昨日の和光さんみたいに、なにかしてくれたときに「ありがとうございます」ってお礼を言うと、「なんもなんも」って言うじゃないですか。

みなさん うんうん。

藤本 「なんも」ってすごい言葉だな、と思って。

みなさん うん。

藤本 しかも「なんも」っていうのは、相手方が「ありがとう」って言ってくれたり、「ごめんね」って言ってくれたときに「なんも」って。つまりそこには必ず対話がありますよ。

みなさん うん。

藤本 この地域を少し歩いただけで、いろいろ話しかけてくれて、それが僕らにとってとても有り難いからお礼を言うと「なんもなんも」って。そういう心持ちに、秋田の人の優しさが溢れているな。ってすごく思うんです。ね。かつ、最終的にこの言葉が出てくるというのは、そもそも何か行動を起こしてくれるからこそなわけで、そこ





にまずは積極性がないと、「なんも」は生まれにくいわけですよ。

**みなさん** うんうん。  
**藤本** 誰かに何かを言われたわけでもなく、相手の話を聞いて、「これが求められているんじゃないか？」って、本をわざわざ持って来てくれるような、この町のみなさんの、もはや、おせっかいに近いくらいいの(笑)積極性というかもな精神がこの町の誇りだとしたら、それが僕たちは、この「なんも」っていう言葉に象徴的にあらわれていると思うってすね。ちょっとこれを見てもらえますか……。」「ことば先生」の免許状をヒントに、「なんも先生免許状」っていうのを……。

**みなさん** はははは。  
**藤本** 今回の一連の取材のお礼に、みなさんに、「なんも先生免許状」と、そして、「なんも先生バッジ」を。

**みなさん** はははははははは。  
**藤本** 作ってきたので。これからもみなさんには、積極的におもてなしいただって、「ありがとう」って感謝されたら、「なんもなんもなんも」って。

**みなさん** はははははは。  
**藤本** 西成瀬のみなさんの「なんも精神」を、これからは「なんも先生」として、子どもたちに伝えていってもら



いたいなあと。昨日みんなで作った手作りなんです。いろんな色があるので好きなものを選んでいただいて……。

**藤本** 本当にみなさん今日はありがとうございました。うございました。

**全員** ありがとうございます！  
**みなさん** なんも、なんも(笑)。

もはや、「なんもなんも村」とでも呼ばたいくらい西成瀬。センターを出た僕たちは、一昨日出会ったみなさんにも、「なんも先生免許状」と「なんも先生バッジ」をプレゼントに行きます。

### さいごのサプライズ

西成瀬の人たちに「なんも先生バッジ」をお渡しすることができて、一安心した僕たちは、秋田市内へと戻る前に、「内蔵のある町」として有名な増田町で少し休憩をとることに。たまたま見つけたお店でコーヒーをいただきながら、実はこっそりと、あるサプライズイベントの準備をはじめます。というのも、この取材の約10日前に、本誌表紙をはじめ、のんびり取材には欠かせないカメラマンの浅田(政志)くんの第一子、その名も朝日くんが誕生したのです。予想どおり、タバコを吸いに浅田くんが店を出たその間に、プレゼントを用意。タバコを吸い終えてふらり帰って来た浅田くんは、「おめでとー!!!」と、いきなりプレゼントを渡します。突然のことに驚きつつも、嬉しそうな浅田くん、早速プレゼントの包みを開けると、なかに池田修三さんの木版画作品が。「えー!!!」そこに描かれた母子像に、奥さんと朝日くんを見た浅田くんは、猛烈に喜んでくれて、僕たちも大満足。そして浅田くんが「嬉しいー!!! ありがとうー!!! ありがとうございます!!!」と喜んでくれたその瞬間、キターーキターー!!! とばか

## なんも先生

自分たちは嫁いできたもののお子さんのことば教育について教えてくれた

佐藤ヨシさん(右)  
佐藤由紀子さん(左)



お墓まで本を届けてくれた  
見田和光さん



熊吉先生のご親戚で  
家系図を見せてくれた

遠藤幸子さん(右)  
遠藤アサさん(左)



座談会に来てくれた恵子さんのお父さん  
佐々木明さん



西成瀬小学校の思い出を  
語ってくれた  
遠藤寿一さん



## なんも先生



りに、みんなで、「なんもなんもなんもなんもなんも……」。

おしまい。



## なんも先生





のんびりまっすぐ

# 秋田のうどん

文 矢吹史子 写真 船橋陽馬

Text\_Fumiko Yabuki  
Photo\_Yoma Funabashi



雪国、秋田の夏は短いながらも、湿気が多く蒸し暑い。この時期をスッキリと過ごすには、きりっと冷やして、つるつと食べられる「うどん」は欠かせない存在です。

秋田でうどんといえば、日本三大うどんの一つといわれている「稲庭うどん」が有名ですが、秋田のうどんはそれだけではありません！

長年愛されてきたうどんが、県内各地にまだまだあるのです。これからやってくる本格的な夏を前に、いまが真っ盛りのうどん作りの現場を訪ねてきました。



# 稲庭絹女うどん

秋田のうどんの聖地ともいえる湯沢市稲庭地区で、とくに手作りにこだわっているのが「稲庭絹女うどん」。我が子のように、手塩にかけて作られたうどんは、その名のとおり、上品な艶があり、優雅な女性のようなです。



うちの稲庭うどんは、生地を練って、切つて、小巻にして、手廻いで……という全ての工程が手作業です。手廻いを機械にすれば、ほんとは楽なんですけどね。おいしくするために、生地を柔らかく仕上げているから、機械にかけられないんです。

でも、「たくさん作って売ろう」というスタンスではなく、「いいものを作ろう」って、そればかり考えているので。会社はちっちゃいんですけど、味は評価していただけているかなと思います。

以前、地元の14社ほどが集まった試食会で、おかげさまで1番に選ばれて。また次回ナンパーワンでいられるように、品質だけは落とさないようにって、ずっと思っています。麺線（麺の状態）をみるために、AさんとBさんが手廻いしたものを食べ比べてみたり。同じように作ってるように見えても、クセで太さが均一にならないこともあるので、日々調節して、安定したものを作っていきたいです。

でも何より、おいしいのができると楽しいですよ。やっぱりうちのが一番おいしいと思います。よそのはよそのでうまいですけど、うちはある程度厚みを残してるんです。そうすると歯ごたえやコシも残るし。

県外のお客様で、海外旅行が好きの方から「日本に帰ってくると、いつも一番最初に食べるのが絹女うどんだ」ってメールをいただいたのは、すごく嬉しくて覚えてますね。新しいことより、まずはこのうどんを一生懸命売ることしか考えてません。



一途に、  
おいしいうどんを  
有限会社 稲庭絹女うどん  
高橋 和彦さん

秋田県湯沢市稲庭町字稲庭132-1 ☎ 0183-43-2638



# 能代うどん

初代の住吉忠助が兵庫県から北前船で辿り着き、この地に根付いたとされている「能代うどん」。その製造方法は、なんと企業秘密！ このうどんの独特の弾力は、代々守られてきた精神の現れなのかもしれません。



## 手だけが知ってる、うどんのひみつ

のしろ 能代うどん本舗 すみちろう  
住吉治一郎さん

秋田県能代市元町6-10 ☎ 0185-52-2628

うちは、ゆで麺と乾燥と両方やってるんですよ。乾燥は自然乾燥なんだけど、雪国ではハンデが大きいから、乾燥は11月〜3月いっぱい休み。だからあんまり量が作れないんだ。

乾燥を作るのはだいたい週2回。今の時期は仕上がるまで3日。乾燥させたものは時間を置くと戻ってしまうから、乾いたところをすぐ裁たねば。酒飲みに行ってるどきでも、パラパラと雨の音がすれば途中で戻って、2時、3時までかかってそれを全部裁つ。結局昔の百姓と同じで、空と付き合わねえばねえだ。日曜も祭日もねえもん。

でもうちはよその麺には絶対に負けない。うちの麺の袋には「弾力があり、伸びにくいのが特徴です」って書いてある。これは自信がなければやれないですよ。どこに行っても「おたくのはどうして伸びないんだ？」って聞かれる。「企業秘密です」って笑ってるけど、私の手を見てみれ。仕事で力が入ってこうなってしまった。作業のある一部を人の手でやる行程がある。それは絶対に見せられないけれど、3代目のうちの親父が見つけた製法なんだ。「これだけは、絶対手を抜いてはならない、いいものができない」って言われてきた。だから、手を見せるのは恥ずかしいんだ。

20年くらい前に物産会で1年間、全国のデパートをまわったとき、同業者がきて、「うどん見て、食べて、「丁寧で作ってるねえ」って言われたんだ。同業者にな。あのどきはおもしろかったな……。」





# 象 湯 う どん

昭和10年創業。3代目の実さんが家族とともに営んでいる「伊藤製麺所」。鳥海山からの豊かな水と、四季を通じて寒暖差が少ない環境は、うどん作りのみならず、この町の人たちのおおらかな人柄をも育てているようです。

私が家業を継いで15年目になります。元々は継ごうとは思っていませんでした。山形に見習いに行っていたころ、お腹がすいて「これでも食うか」くらいの気持ちで、うちのうどんを食べてみたんですよ。そしたら、すっげえうまくて(笑)。「これはなくしちゃいけないな」って。  
戻ってきて、じいちゃんや父さん、3代みんなど働けたのは良かったですね。ちょっと逃すとそんな機会なかったと思うんで。二人とも、ほんとに必死に仕事してきました。そういう部分を見習いたいですね。でも、毎

日おもしろいですよ。明日の仕事が嫌だと思つたことないですもん。やっぱり家族でやってるからかな。  
秋田でうどんといえば「稲庭うどん」でしょうけど、そういう有名なものがあって良かったなと思いますよ。おかげで「他にもあるんだ。こっちは秋田もおいしいんじゃない？」って逆に興味を持ってもらえたり。ほかと比べて、うちの麺は食べやすい。そんなに太くないし、つるつる入っていくように。価格も抑えて「毎日の食卓の一部であるような」そんなうどんになればなってる

ます。  
だから地元の人には感謝ですよ。こんなちっちゃい製麺屋が生きていられるのって、地元の人が食べてくれて、お土産に持たせたり、法事に使ってくれたりするからなんです。やっぱり象湯の人は象湯を愛してるんですよ。仲間も飲めばみんな絶対言ってる「象湯いいなあ、最高だよな」って(笑)。

## 象 湯 愛 っ ぱ い、 毎 日 の う どん

伊藤製麺所  
伊藤実さん

秋田県にかほ市象湯町字五丁目塩越167-1 ☎ 0184-43-3085



# 本 庄 う どん

創業は昭和元年。職人気質で寡黙な伊久雄さんと、母・エツさんを始めとした底抜けに明るい女性スタッフで構成される「伊藤製麺工場」。その絶妙なバランスと長年の勤が、うどん作りを支えてきました。



## 小さく、細く、昔どおりに

株式会社 伊藤製麺工場  
伊藤エツさん

秋田県由利本荘市石脇字石脇36 ☎ 0184-22-1576

昔からずっと同じ作り方。立派な機械はありません。ほんとに手作業(笑)。コツコツコツコツががんばってるのよ。やっぱり手作業のほうがいいです。機械だと人間の目が触れるところが少ないけれど、これだと1本ずつ見えるから。  
麺を切る作業は、いつも息子と2人仲良くやっています。喧嘩したこともありませんが(ザクザク)この音がいいほど乾燥してる。乾燥してねえば、にぶい音がする。切った麺はこうやって手で量って袋に入れるだけ。みんな目で見て。昔どおりやっています。  
味はよそには負けませんね(笑)。小さく、細くね。数多くは作れないから。でもやっぱり、うどん見るたびに嬉しい、切るたびに嬉しいよ。今日はどうなふうにして切ったらいいかなあとか考えながら。掃除は嫌いだけど(笑)。天気みながら、雨戸開けながら、扇風機の回転数変えたりして、自分の気持ちでやるからね。数字なんてない、決まってることはないから、みんな勘で。私は56年やってるから、体が覚える。いま77歳。このあいだ足の手術はしたけれど、仕事してれば楽しいよ。  
石脇(地区)の湧き水は宝物です。麺を作るのも、ゆでるのも、つゆにもこの水を使っています。水道水とは全然味が違う。「この井戸水が出なくなったら、うどん屋を辞めていいよ」って、おじいさんが言ってたくなかったから、あらためてちゃんと井戸を掘って、だから、今もいっく水出ます。うちにも龍神様がありますよ、お茶の間さ。毎朝一番に水をあげていますよ。



# 詩 修

詩人が描く池田修三の言葉⑤ 倉本美津留

池田修三の版画に寄せた、詩人たちの書き下ろし作品



「笛の天使」1996年

天が返事をしてくれる  
おまえのありがとうが届いたから  
不思議な出会いにハッとして  
ありがたい想いがいっぱいになって  
自分のからだを笛にして  
天に向かって鳴らしたから  
人の耳には聴こえない  
天の使いが聴ける音  
そんな音色が届いたら  
ちゃんと天に届けてくれて  
あとで笛でこたえてくれる  
もっと不思議な出会いをくれる

## C 幼笛

しーようふえ

「うちには立派な機械はないから……」。訪ねたどの製麺所からも聞こえてきた、この言葉。しかし、そのあと続けて「でも、うちのうどんが一番おいしい！」と、ためらいなく言い切る姿がとても印象的でした。

彼らにとって「立派な機械がない」ということはどこか誇らしげであり、それ以上の「確かなもの」を持っているという、自信の現れのようにも映りました。

その土地の水や空気を肌で感じることに、お客さんの声を直接聞けること、先代からの技術を受け継ぐこと……それらが、年月を重ねて体に刻み込まれ、いつしか機械には換えられない「確かなもの」になったのだと思います。

そうして作られたうどんは、驚くほどシンプルで、力強く、美しい。まるで迷いのない彼らの姿のようです。

秋田のうどんは、こうして今日も作られています。

池田修三

1922年秋田県にかほ市象潟町生まれ。版画家。秋田県内の高等学校美術科教諭を退職後、1955年に上京し版画に専念する。主テーマは子どもたちの情景で、晩年は風景画も手がける。作品は企業カレンダーや銀行の通帳、「広報きさかた」の表紙などにも使われる。2004年82歳で死去。

くらもと みつる  
倉本美津留

放送作家。「ダウンタウン DX」Eテレのこども番組「シャキーン」他を手がける。これまでの仕事に「ダウンタウンのごっつええ感じ」「一人ごっつ」「M-1 グランプリ」「伊東家の食卓」「たけしの万物創世記」など。近著に、こば絵本「明日のカルタ」。また、ミュージシャンとしての顔も持つ。





## 航空

- 東京(羽田)⇄秋田 ANA/JAL … 約65分
  - 大阪(伊丹)⇄秋田 ANA/JAL … 約80分
  - 札幌(新千歳)⇄秋田 ANA/JAL … 約55分
  - 名古屋(中部国際)⇄秋田 ANA … 約80分
  - 【リムジンバス】秋田空港～秋田駅西口(約35分)
  - 東京(羽田)⇄大館能代 ANA … 約70分
  - 【リムジンバス】大館能代空港～大館市内(約55分)  
大館能代空港～北秋田市(鷹巣)(約15分)
- 〈ANA〉0570-029-222 〈JAL〉0570-025-071



### 藤本流 のんびり飛行機の旅

車で丸1日かけて秋田へ行くことも多い僕にとって、伊丹空港から秋田空港までたったの80分。って、まるでワープ。しかも早割の安い航空券使ったら、大阪～東京の新幹線代と変わらない安さ！関西から意外に行きやすいのです。

## 新日本海フェリー

- 北行 敦賀(10:00)⇄新潟(22:30)⇄秋田(翌5:50)⇄苫小牧東(17:20)
- 南行 苫小牧東(19:30)⇄秋田(翌7:45)⇄新潟(15:30)⇄敦賀(翌5:30)

●秋田港から秋田市街へは車で約30分。  
(秋田中央交通バスのご利用も可能)

〈秋田フェリーターミナル〉  
018-880-2600  
運航スケジュールは必ずお問合せください。

## 高速バス

- 東京⇄秋田 … 8時間30分(フローラ号)
- 仙台⇄秋田 … 3時間35分(仙秋号)
- 横浜⇄秋田 … 9時間40分(ドリーム秋田・横浜号)

〈秋田中央交通(フローラ号・仙秋号)〉018-823-4890  
〈JRバス東北秋田支店(ドリーム秋田・横浜号)〉018-862-9461  
※秋田市以外の市町村を往復する便も複数あります。



## 秋田新幹線 こまち

- 東京⇄秋田 最速3時間37分
- 大宮⇄田沢湖 最速2時間21分
- 仙台⇄秋田 最速2時間5分

〈JR東日本テレフォンセンター〉  
050-2016-1600



## 鍵岡流 のんびり新幹線の旅

新幹線での行程の中で盛岡を過ぎたあたりから急激に速度が遅くなってきて風景が近くなるあたりがおもしろい。それまでの高速移動から一転、新幹線なのに眼前に迫ってくる緑の距離と人家。自分の持っている新幹線の窓から見える風景の印象とのギャップが、何となく不思議な気持ちになりますし、何回か利用しているとこのタイミングで「秋田に向かってののだな」とテンションが上がってきます。



## 自動車

- 仙台⇄秋田 … 約3時間30分
- 東京⇄秋田 … 約7時間30分

〈日本道路交通情報センター(秋田センター)〉050-3369-6605

# non-biri akita access map

## 大館市

(裏表紙:きりたんぼ、秋田犬)

- |                 |           |
|-----------------|-----------|
| 【電車】            | 【自動車】     |
| 秋田駅             | 秋田駅       |
| ↓JR奥羽本線(1時間50分) | ↓(10分)    |
| 大館駅             | 秋田中央IC    |
|                 | ↓(1時間15分) |
|                 | 二ツ井白神IC   |
|                 | ↓(1時間5分)  |
|                 | 大館駅       |

(きりたんぼ) 大館駅から車で約5分  
十字屋きりたんぼ店  
大館市常盤木町18番9号 TEL 0186-42-2230  
(秋田犬) 大館駅から車で5分  
ゼロダテアートセンター  
大館市字大町9 TEL 050-3332-3819

## 横手市

(p4～:西成瀬地域センター)

- |                 |
|-----------------|
| 【電車】            |
| 秋田駅             |
| ↓JR奥羽本線(1時間40分) |
| 十文字駅            |
| ↓タクシー(15分)      |
| 西成瀬地域センター       |

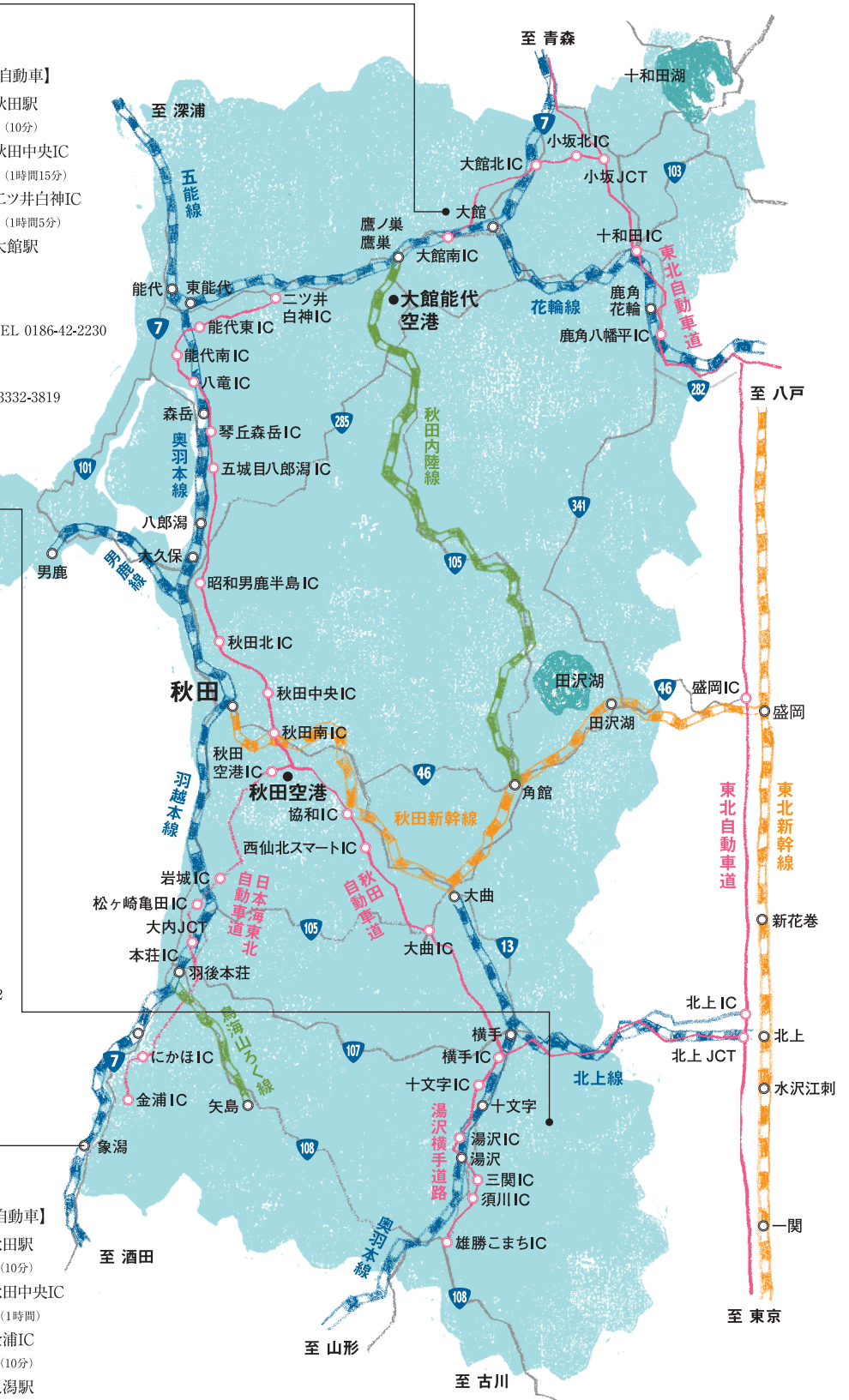
- |           |
|-----------|
| 【自動車】     |
| 秋田駅       |
| ↓(10分)    |
| 秋田中央IC    |
| ↓(50分)    |
| 十文字IC     |
| ↓(15分)    |
| 西成瀬地域センター |

西成瀬地域センター  
横手市増田町荻袋字真当72  
TEL 0182-45-2657

## にかほ市

(p57～:象潟)

- |                 |        |
|-----------------|--------|
| 【電車】            | 【自動車】  |
| 秋田駅             | 秋田駅    |
| ↓JR羽越本線(1時間15分) | ↓(10分) |
| 象潟駅             | 秋田中央IC |
|                 | ↓(1時間) |
|                 | 金浦IC   |
|                 | ↓(10分) |
|                 | 象潟駅    |





STAFF

編集長  
藤本智士 (Re:S)

編集  
矢吹史子  
田宮 慎  
今井春佳  
山口はるか (Re:S)

アートディレクション・デザイン  
堀口 努 (underson)

デザイン  
澁谷和之 (澁谷デザイン事務所)

写真  
浅田政志  
鎌岡龍門  
船橋陽馬

題字・イラストレーション  
スタタカミツ

イラストレーション  
石川 鮎子

似顔絵  
田 淵志織

動画  
近藤康洋 (mel digital co.,ltd)  
佐藤 努 (mel digital co.,ltd)

発行  
秋田県  
(観光文化スポーツ部観光戦略課あきたびじょん室 Tel 018-860-1073)

編集  
のんびり合同会社 のんびり編集部  
〒010-0021 秋田市榎山登町 7-14  
Tel/Fax 018-832-8086  
Mail info@non-biri-go-do.jp

印刷・製本  
秋田活版印刷株式会社

\*乱丁・落丁誌はお取り替えます。  
\*本誌内容の無断転記、記載、複写はご遠慮ください。  
\*本誌データは2014年6月9日現在の情報です。あらかじめご了承ください。  
\*「あきたびじょん」マガジン等企画制作業務委託により制作しています。  
©nonbiri all rights reserved.

next issue  
次号 2014年9月発行予定



「のんびり公式ウェブサイト」公開中!  
<http://non-biri.net>



ピース(1989)

## 池田修三作品が渋谷に!

シダックス・カルチャービレッジ“アート”プロジェクト第3弾「ピース」

画：池田修三 総合プロデュース：森雪之丞 制作：藤本智士

2014年7月10日～(9月末予定)

詳細は <http://www.shuzoikeda.jp>

アートの壁関連展覧会も。  
2014年7月19日～8月31日(予定)



写真：梅佳代

1981年石川県生まれ。2007年、写真集『うめめ』で第32回木村伊兵衛写真賞受賞。その他主な写真集として『男子』、『じいちゃんさま』、『ウメツ』、『の』を刊行。共著に新明解国語辞典×梅佳代『うめ版』がある。2013年、個展「梅佳代展 UMEKAYO」を東京オペラシティアートギャラリーにて開催。日常に溢れる様々な光景を独特の観察眼で捉えた作品が国内外で高い評価を得ている。

秋田県に初めて来てうれしい。  
秋田県といえは  
ギバちゃん佐々木希ちゃんときりたんぽ。  
東京からの新幹線で何回もギバちゃんのことを考えた。  
こんなにギバちゃんのことを想ったのは初めてでした。  
きりたんぽ鍋がおいしかったです。

プレゼント No.1

p50～56でご紹介した、  
県内各地のうどんの食べ比べセット!

### あきたのうどん 食べ比べセット



3  
名様

プレゼント No.2

『のんびり』7号で登場した、  
石川理紀之助の精神を伝える  
「りきのすけカルタ」!

### りきのすけカルタ



3  
名様

のんびり公式ウェブサイトからのご応募の場合 <http://non-biri.net>

ハガキでご応募の場合

- ①郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、メールアドレス
- ②本誌の入手先
- ③今後とりあげてほしい話題
- ④今号で面白かった特集(複数回答可)
- ⑤ご感想
- ⑥ご希望のプレゼント 以上をハガキに明記の上、ご応募ください。

宛先は  
〒010-0021 秋田市榎山登町 7-14  
のんびり合同会社 のんびり編集部

『のんびり』をお読みいただきありがとうございますありがとうございました。  
アンケートにご協力ください。

「のんびり」は人を基軸に「あきたのほんとう」をまっすぐ伝えるマガジンです。本号へのご感想、今後取り上げてほしいテーマなどのご要望、ご提案を、ハガキか「のんびり公式ウェブサイト」のアンケートページからお寄せください。

抽選で『のんびり』オリジナルプレゼントをお贈りいたします。  
応募メチは2014年7月31日(木)。当選の発表は発送をもってかえさせていただきます。

※個人情報保護法に基づき、お届けるためだけに利用し、その目的以外の利用はいたしません。



